

# 通信販売酒類小売業免許申請の手引

## 【この手引の内容】

この手引は、新規に通信販売酒類小売業免許を受けようとする方を対象として、免許申請手続、免許の要件など免許取得に関する事項のほか、免許を取得した後、酒類販売業者として留意すべき事項などを解説したものです。

免許取得後の酒販店の営業に当たっては、11 頁以降の「Ⅲ 酒類販売業者として留意すべき事項」をよく読んで必要な事項を確実に実施するようにしてください。

申請書の様式及びその具体的な記載例などについては、18 頁以降の「Ⅴ 申請書及び添付書類の記載例」及び 42 頁以降の「Ⅵ 様式例」を参考にして記載してください。

なお、この手引は、国税庁ホームページ(<http://www.nta.go.jp/>)『ホーム>税について調べる>パンフレット・手引き>酒税関係>通信販売酒類小売業免許申請の手引』や『ホーム>税について調べる>お酒に関する情報>酒類の免許>免許申請の手引(販売業免許関係)>通信販売酒類小売業免許申請の手引』に掲載しています。

## 《目次》

(頁)

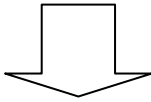
I	通信販売酒類小売業免許の申請手続の流れ	2
II	通信販売酒類小売業免許の申請手続の概要	3
1	通信販売酒類小売業免許とは	3
2	申請手続等	4
3	通信販売酒類小売業免許の要件	5
4	通信販売酒類小売業免許の審査	8
5	登録免許税の納付	8
6	通信販売酒類小売業免許の通知	9
7	国税電子申告・納税システム(e-Tax)について	9
III	酒類販売業者として留意すべき事項	11
1	通信販売酒類小売業免許で酒類の仕入・販売ができる相手先等	11
2	酒税法上の義務	11
3	免許取得後における免許に関する各種手続	13
4	酒類業組合法上の義務	14
5	社会的要請への適切な対応(主なもの)	15
IV	申請書類一覧表	17
V	申請書及び添付書類の記載例	18
VI	様式例	42

(参考) 酒類販売管理者選任(解任)届出書 記載例及び様式  
証明書(通信販売の対象となる酒類である旨の証明書)

## I 通信販売酒類小売業免許の申請手続の流れ

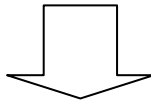
### 申請書の提出

- ・ 申請書及び添付書類を作成し、販売業免許を受けようとする販売場の所在地の所轄税務署に提出してください。
  - ※ 申請書はいつでも提出することができます。



### 審査

- ・ 審査は、原則として、申請書の受付順に行います。
- ・ 審査に際しては、必要に応じ、来署していただく場合や現地確認をさせていただきます場合があります。
  - ※ 申請書類の審査には、申請件数の多寡により、相当の期間（標準処理期間2か月）がかかります。



### 免許付与等の通知

- ・ 審査の結果、通信販売酒類小売業免許が付与される場合には、申請者に書面で通知します（付与できない場合についても、その旨を書面で通知します）。
  - なお、免許付与に際して、登録免許税（免許1件につき3万円）を納付する必要があります。
  - ※ 「通信販売を除く小売に限る。」旨の条件が付された一般酒類小売業免許等の条件の緩和を受け、新たに2都道府県以上の広範な地域の消費者等を対象とした通信販売を行う場合は登録免許税の納付は必要ありません。



### 酒類の販売開始

- ・ 11頁以降の「Ⅲ 酒類販売業者として留意すべき事項」を守り、適切な酒類の販売を行ってください。

酒類販売業免許申請書及び所定の添付書類の提出先は、酒類販売業免許を受けようとする販売場の所在地の所轄税務署ですが、個別・具体的な相談がある場合には、当該所在地の所轄税務署を担当する酒類指導官までお問い合わせください。

なお、酒類指導官が設置されている税務署及び担当税務署については、酒類販売業免許を受けようとする販売場の所在地の所轄税務署へお問い合わせください。

## Ⅱ 通信販売酒類小売業免許の申請手続の概要

### 1 通信販売酒類小売業免許とは

酒類の販売業をしようとする場合には、酒税法に基づき、販売場ごとに、その販売場の所在地の所轄税務署長から酒類販売業免許（以下「販売業免許」といいます。）を受ける必要があります。

販売場ごとに受ける必要があるとは、例えば、本店で販売業免許を受けている場合であっても、支店で酒類の販売業を行おうとする場合には、支店の所在地の所轄税務署長から新たに販売業免許を受ける必要があるということです。

販売業免許は、販売先や販売方法によって区分されていますが、このうち、通信販売（2都道府県以上の広範な地域の消費者等を対象として、商品の内容、販売価格その他の条件をインターネット、カタログの送付等（注1）により提示し、郵便、電話その他の通信手段（注2）により売買契約の申込みを受けて当該提示した条件に従って行う販売をいいます。以下同じ。）によって酒類を小売することができる販売業免許が、「通信販売酒類小売業免許」です。（注3）

「通信販売酒類小売業免許」では、酒類の店頭小売（店頭において酒類の売買契約の申込みを受けること、又は、店頭において酒類を引き渡すことを行う販売をいいます。）及び一の都道府県の消費者等のみを対象として小売を行うことはできないので留意してください。（注4）

販売業免許を受けずに酒類の販売業を行った場合には、酒税法上、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処されることとされています。

また、偽りその他不正な行為により販売業免許を受けた場合など一定の場合には、販売業免許が取り消されることがあります。

- (注) 1 「カタログの送付等」とは、カタログの郵送等による配付又は備置きのほか、チラシ等の新聞折り込み又は郵送等による配付若しくは備置き、雑誌又は新聞への広告掲載及びテレビ放送の利用等をいいます。
- 2 「通信手段」とは、郵便等、電話機、ファクシミリ装置その他の通信機器若しくは情報処理の用に供する機器を利用する方法、電報又は預金若しくは貯金の口座に対する払込みをいいます。
- 3 「通信販売を除く小売に限る。」旨の条件が付された一般酒類小売業免許等を受けている方が、新たに2都道府県以上の広範な地域の消費者等を対象とした「通信販売」により酒類を販売しようとする場合は「酒類販売業免許の条件緩和申出書」を提出し、条件の緩和等を受ける必要があります。
- 4 「通信販売酒類小売業免許」ではなく、「一般酒類小売業免許」の取得が必要です。

## 2 申請手続等

### 1 申請及び審査順位

通信販売酒類小売業免許の申請（以下「申請」といいます。）は、酒税法令に定められた事項を記載した「酒類販売業免許申請書」（以下「申請書」といいます。）及び所定の添付書類を、販売業免許を受けようとする販売場（以下「申請販売場」といいます。）の所在地の所轄税務署長に提出して行います。申請書はいつでも提出することができ、税務署はその受付順に審査を行います。

（注） 申請書は、次の場合を除き、申請販売場の所在地の所轄税務署の文書受付業務を担当する窓口に到達した時点で提出があったこととなります。郵便等により提出される申請書についても到達した時点（通信日付印により表示された日ではありません。）で提出があったものとして取り扱います。

- （1） 申請書が、申請販売場の所在地の所轄税務署の時間外文書収受箱に提出された場合は、そこから申請書が取り出された日の直前の開庁日に到達したのものとして取り扱います。
- （2） 申請書が、国税電子申告・納税システム（以下「e-Tax」といいます。）によって提出された場合は、送信された申請書が e-Tax に記録された時点において提出があったものとして取り扱います。

### 2 申請に当たり提出する書類

申請書を提出する場合には、所定の添付書類を同時に提出していただく必要があります。17頁「**IV 申請書類一覧表**」をよく読んで添付漏れ等のないようにお願いします。

なお、e-Tax によって申請書を提出する場合の添付書類については、別途郵送等により提出してください。詳しくは、9頁「**7 国税電子申告・納税システム(e-Tax)について**」をご覧ください。

また、提出された申請書及び添付書類は原則としてお返ししません。

### 3 通信販売酒類小売業免許の要件

通信販売酒類小売業免許を受けるためには、申請者、申請者の法定代理人、申請法人の役員、申請販売場の支配人（以下「申請者等」といいます。）及び申請販売場が以下の各要件（以下「免許の要件」といいます。）を満たしていることが必要です。

免許の要件を満たしていることについては、「酒類販売業免許の免許要件誓約書」（17頁「**IV 申請書類一覧表**」③の書類）により誓約していただくこととなります。この誓約の内容を偽るなど不正行為があった場合には、その不正行為が、①審査段階で判明したときは拒否処分、②販売業免許の取得後に判明したときは取消処分の対象となります。

(注) 不正行為により販売業免許を取得した場合は、その不正行為によって取得した販売業免許だけでなく、その者が有しているすべての販売業免許について取消処分を受けることがあります。また、販売業免許の取消処分を受けた場合には、①取消処分を受けた者、②取消処分を受けた者が法人であるときにはその法人の業務を執行する役員及び③これらの者が役員となっている法人は、原則として、新たに販売業免許を受けることはできなくなります。

#### 1 酒税法 10 条 1 号から 8 号関係の要件（人的要件）

- (1) 申請者が酒類の製造免許若しくは酒類の販売業免許又はアルコール事業法の許可の取消処分を受けたことがないこと
- (2) 申請者が酒類の製造免許若しくは酒類の販売業免許又はアルコール事業法の許可の取消処分を受けたことがある法人のその取消原因があった日以前 1 年以内にその法人の業務を執行する役員であった者の場合には、その法人が取消処分を受けた日から 3 年を経過していること
- (3) 申請者が申請前 2 年以内において国税又は地方税の滞納処分を受けたことがないこと
- (4) 申請者が国税又は地方税に関する法令等に違反して、罰金の刑に処せられ又は通告処分を受けた者である場合には、それぞれ、その刑の執行を終わり、若しくは執行を受けることがなくなった日又はその通告の旨を履行した日から 3 年を経過していること
- (5) 申請者が、未成年者飲酒禁止法、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（未成年者に対する酒類の提供に係る部分に限る。）、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律、刑法（傷害、現場助勢、暴行、凶器準備集合及び結集、脅迫又は背任の罪）又は暴力行為等処罰に関する法律の規定により、罰金刑に処せられた者である場合には、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から 3 年を経過していること
- (6) 申請者が禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わった日又は執行を受けることがなくなった日から 3 年を経過していること

(注) ①申請者が営業に関し成年者と同一の能力を有しない未成年者又は成年被後見人、被保佐人若しくは被補助人である場合はその法定代理人が、②申請者又は法定代理人が法人の場合はその役員が、また、③申請販売場に支配人を置く場合はその支配人が、それぞれ、上記(1)、(2)、(4)、(5)及び(6)の要件を満たす必要があります。

## 2 酒税法 10 条 9 号関係の要件（場所的要件）

正当な理由がないのに取締り上不適当と認められる場所に販売場を設けようとしていないこと

具体的には、申請販売場が、製造免許を受けている酒類の製造場や販売業免許を受けている酒類の販売場、酒場又は料理店等と同一の場所でないことが必要となります。

## 3 酒税法 10 条 10 号関係の要件（経営基礎要件）

免許の申請者が破産者で復権を得ていない場合のほか、その経営の基礎が薄弱であると認められる場合に該当しないこと

具体的には、申請者（申請者が法人のときはその役員（代表権を有する者に限ります。）又は主たる出資者を含みます。）が、①次のイ～トに掲げる場合に該当しないかどうか、②次のチ～ヌの要件を充足するかどうか、で判断します。

イ 現に国税若しくは地方税を滞納している場合

ロ 申請前 1 年以内に銀行取引停止処分を受けている場合

ハ 最終事業年度における確定した決算に基づく貸借対照表の繰越損失が資本等の額<sup>(注)</sup>を上回っている場合

ニ 最終事業年度以前 3 事業年度のすべての事業年度において資本等の額<sup>(注)</sup>の 20%を超える額の欠損を生じている場合

(注) 「資本等の額」とは、資本金、資本剰余金及び利益剰余金の合計額から繰越利益剰余金（会社法<sup>(注)</sup>施行前に終了する事業年度については、当期末処分利益又は当期末処理損失）を控除した額をいいます。

### 貸借対照表の純資産の部

株主資本	***	
1 資本金	***	①
2 資本剰余金	***	②
(1) 資本準備金	***	
(2) その他資本剰余金	***	
3 利益剰余金	***	③
(1) 利益準備金	***	
(2) その他利益剰余金	***	
〇〇積立金	***	
繰越利益剰余金	***	④

上記「ハ」について

最終事業年度が、④<0（繰越損失）の場合で、繰越損失額が、(①+②+③-④)の額を超えている場合に該当します。

上記「ニ」について

各事業年度（過去 3 事業年度）において当期純損失が計上されている場合で、各事業年度の当期純損失の額が、各事業年度の(①+②+③-④)×20%の額をすべての事業年度において超えている場合に該当します。

- ホ 酒税に関係のある法律に違反し、通告処分を受け、履行していない場合又は告発されている場合
- へ 販売場の申請場所への設置が、建築基準法、都市計画法、農地法、流通業務市街地の整備に関する法律その他の法令又は地方自治体の条例の規定に違反しており、店舗の除却若しくは移転を命じられている場合
- ト 申請酒類小売販売場において、酒類の適正な販売管理体制が構築されないことが明らかであると見込まれる場合

- チ 経験その他から判断し、適正に酒類の通信販売を行うため十分な知識、経営能力及び販売能力を有すると認められる者又はこれらの者が主体となって組織する法人であること
- リ 酒類の通信販売を行うための所要資金等を有し、販売方法が特定商取引に関する法律の消費者保護関係規定に準拠（詳細は 54 頁「通信販売酒類小売業免許申請書チェック表《(3) についての確認事項》」参照）し、「未成年者の飲酒防止に関する表示基準」を満たし、又はこの定めを満たすことが確実であると見込まれること
- ヌ 酒類の購入申込者が未成年者でないことを確認できる手段を講ずるものと認められること

#### 4 酒税法 10 条 11 号関係の要件（需給調整要件）

酒税の保全上酒類の需給の均衡を維持する必要があるため酒類の販売業免許を与えることが適当でないと思えられる場合に該当しないこと

具体的には、販売できる酒類の範囲は、次の酒類に限ります。

(1) 国産酒類のうち、次に該当する酒類

イ カタログ等（注1）の発行年月日の属する会計年度（4月1日から翌年3月31日までの期間をいいます。）の前会計年度における酒類の品目ごとの課税移出数量（注2）が、全て3,000キロリットル未満である酒類製造者（特定製造者といいます。）が製造、販売する酒類。

ロ 地方の特産品等（製造委託者が所在する地方の特産品等に限ります。）を原料として、特定製造者以外の製造者に製造委託する酒類であり、かつ、当該酒類の一会計年度における製造委託者ごとの製造委託数量の合計が3,000キロリットル未満である酒類。

(2) 輸入酒類（輸入酒類についての制限はありません。）。

(注) 1 「カタログ等」とは、いわゆるカタログのほか、チラシ等若しくは雑誌新聞又はインターネットによる広告等をいいます（以下同じ。）。

2 前会計年度における課税移出実績がない場合は、カタログ等の発行日の属する会計年度における酒類製造者の製造見込数量により判断します。

3 上記(1)の酒類が、通信販売により販売できる酒類かどうかについては、通信販売を予定している酒類製造者の発行する証明書（通信販売の対象となる酒類であることの証明書をいいます。61頁「証明書」参照）（上記(1)のロの酒類については製造委託契約書・同契約書等）を申請書に添付してください。

4 「製造委託者が所在する地方」は、原則として製造委託者の住所又は本店が所在する都道府県の範囲とする。

## 4 通信販売酒類小売業免許の審査

### 1 通信販売酒類小売業免許付与の審査

通信販売酒類小売業免許付与の審査は、税務署において受付順（審査順位）に行い、

- 申請書及び添付書類の内容に不備がないか
- 申請者等及び申請販売場が免許の要件に合致しているか

などの点について審査します。

必要に応じ、申請者や酒類販売管理者<sup>(注)</sup>に選任を予定している方に来署していただく場合や現地確認をさせていただく場合があります。

また、申請書の提出後に決算期が到来し最新の財務諸表の内容を確認する必要がある場合など、追加的に書類を提出していただくことがあります。

- (注) 1 「酒類販売管理者」とは、酒類販売業務に関する法令を遵守してその業務が実施されるよう、従業員の指導等を行う者をいいます。詳しくは14頁「1 酒類販売管理者の選任義務」をご覧ください。
- 2 免許の審査にあたっては、審査手続きの実行性を確保する観点から、酒販組合に対して意見を聴取する場合があります。

### 2 標準処理期間

通信販売酒類小売業免許申請の審査に必要な標準的な日数（標準処理期間）は、原則として、申請書の提出のあった日の翌日から2か月以内としています。ただし、添付が漏れている書類や審査を行う上で必要となる参考書類の追加提出又は申請書類の補正をお願いした場合には、追加提出等をお願いした日から、その書類の提出等があるまでの間の日数は、標準処理期間に含まれません。

## 5 登録免許税の納付

審査の結果、通信販売酒類小売業免許が付与される場合、登録免許税を納付する必要があります。税務署から「酒類販売業免許に伴う登録免許税の納付通知書」により通知しますので、税務署又は金融機関等で登録免許税を納付してください。

登録免許税の額は、免許1件につき3万円です。登録免許税の納付に係る領収証書は、「登録免許税の領収証書提出書」にちょう付して、指定された期日までに税務署に提出してください。

- (注) 1 登録免許税法により領収証書の提出が義務付けられていますので、領収証書の現物の提出が必要です（写しの提出はできません。）。
- 2 「通信販売を除く小売に限る。」旨の条件が付された一般酒類小売業免許等の条件の緩和を受け、新たに2都道府県以上の広範な地域の消費者等を対象とした通信販売を行う場合は登録免許税の納付は必要ありません。



## 6 通信販売酒類小売業免許の通知

### 1 通信販売酒類小売業免許の付与

通信販売酒類小売業免許を付与する旨の通知は、原則として、税務署に提出された「登録免許税の領収証書提出書」により登録免許税が納付されていることを確認した上で、「酒類販売業免許通知書」を交付又は送付することにより行います。

なお、審査の結果、免許の要件を満たさないため、免許を付与できない場合には、その旨を書面で通知します。

### 2 通信販売酒類小売業免許の条件

通信販売酒類小売業免許には、原則として、販売する酒類の範囲について制限が加えられるほか、販売方法について「2都道府県以上の広範な地域の消費者等を対象としてカタログ等（インターネット等によるものを含みます。）を使用して販売のための誘引行為を行い、通信手段により購入の申込みを受け、配達により商品の引渡しを行う小売販売で、かつ、酒類の購入申込者が未成年者でないことを確認できる手段を講ずる場合に限る。」旨の条件が付されます。

（注） 販売場の周辺（販売場の所在する同一の都道府県内）の消費者のみを対象とする通信販売は、「通信販売を除く小売に限る。」旨の条件が付された一般酒類小売業免許で行うことができます。

### 3 通信販売酒類小売業免許者の氏名等の公表

国税庁では、販売業免許の付与等を行った場合には、その免許者について、①免許等年月日、②申請等年月日、③免許者の氏名又は名称及び法人番号、④販売場の所在地、⑤免許等種類（卸小売の区分、一般・特殊免許等の区分）、⑥処理区分（新規、移転等）、⑦審査項目（審査項目一覧表の番号）を公表することとしています。

これらの情報は、国税庁ホームページ（<http://www.nta.go.jp/>）『ホーム>税について調べる>お酒に関する情報>酒類の免許>免許の新規取得者名等一覧』に掲載されます。

## 7 国税電子申告・納税システム(e-Tax)について

酒類販売業免許申請書は、国税電子申告・納税システム（e-Tax）により提出が可能です。

### 1 事前手続（開始届出書の提出及び電子証明書の取得等）

e-Tax のご利用に当たっては、事前に開始届出書を申告所得税や法人税の納税地を所轄する税務署に提出する必要があります。

開始届出書は、e-Tax ホームページ（国税庁ホームページからアクセスできます。）からオンラインで提出できるほか、書面でも提出できます（開始届出書の様式は、e-Tax ホームページから

入手することができます。)

提出された開始届出書の内容を確認した後、税務署から「利用者識別番号」及び「暗証番号」を記載した通知書等が送付されます。

なお、開始届出書をオンラインで提出した場合、「利用者識別番号」がオンラインで即時に発行されます。

また、e-Tax 利用の際には、申請データに利用者が電子署名を行うこととなりますから、「電子証明書」を e-Tax の利用開始までに取得する必要があります。

## 2 提出できる申請書等

e-Tax を利用して提出できる申請書等は、次のとおりです。

(1) 酒類販売業免許申請書

(2) 登記事項証明書（インターネット登記情報提供サービスを利用する場合）

(注) 不動産に係る登記事項証明書及び法人の商業登記に係る登記事項証明書をいいます。

なお、e-Tax で申告書や申請・届出書を送信した場合、別途郵送等で書面により提出する必要がある添付書類について、イメージデータ（PDF 形式）により提出することができます。ただし、イメージデータで送信した添付書類のうち、法令の規定により原本の提出が必要とされている第三者作成の添付書類については、送信した日から 5 年間、保存しておく必要があります。

また、免許取得後の酒税に関する各種申告、届出等関係についてもご利用いただけますので、詳しくは、e-Tax ホームページをご覧ください。

## 3 申請書の受理等の取扱い

e-Tax を利用して申請書の提出があった場合は、送信された申請書データが e-Tax に記録された時点（e-Tax によって利用者に通知される受付日時）で到達したものとみなされます。

e-Tax の利用可能日時、利用開始前に必要な手続、その他利用上の注意事項など詳しいことは、e-Tax ホームページ (<http://www.e-tax.nta.go.jp/>) をご覧ください。

### Ⅲ 酒類販売業者として留意すべき事項

#### 1 通信販売酒類小売業免許で酒類の仕入・販売ができる相手先等

通信販売酒類小売業免許は、通信販売によって、酒類を小売することができる免許であり、店頭小売や、他の酒類販売業者に対して酒類を販売することはできません。

また、酒類を仕入れる場合には、酒類の卸売をすることが可能な者（酒類卸売業免許を取得している者や酒類製造者）から購入する必要があります。

#### 2 酒税法上の義務

酒類販売業者には、酒税法の規定により、次のような義務が課されています。酒類販売業者が、これらの義務を履行しない場合には、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処されることとされています。

##### 1 記帳義務

酒類販売業者は、酒類の仕入れ、販売に関し次の事項を帳簿に記載しなければならないこととされています。

なお、帳簿の様式は定めていませんので、必要な記載事項が網羅できるものであれば、ご自分の作成した様式を使用することもできます。

##### (1) 仕入れに関する事項

酒類の品目別及び税率の適用区分別（アルコール分別など）に、

- ・ 仕入数量
- ・ 仕入価格
- ・ 仕入年月日
- ・ 仕入先の住所及び氏名又は名称

##### (2) 販売に関する事項

酒類の品目別及び税率の適用区分別（アルコール分別など）に、

- ・ 販売数量
- ・ 販売価格
- ・ 販売年月日
- ・ 販売先の住所及び氏名又は名称

(注) 1 販売先の住所及び氏名又は名称は省略することができます。

2 次に掲げる事項を厳守する場合には、販売した数量、販売年月日について、3か月を超えない期間の合

計数量により一括して記帳することができます。

- (1) 仕入れた酒類の全部について、上記の仕入れに関する事項がすべて記載された伝票を仕入先から交付を受け、それを5年以上保存しておくこと。
  - (2) 3か月を超えない月の月中（当該月が会計年度の最終月に当たる場合はその月末）において実地棚卸しを行っていること。
- 3 税務署の職員が検査取締上必要と認めるときは、仕入れ、販売に関する帳簿を検査することができることとされています。

### (3) 帳簿の備付場所及び保存期間

酒類販売業者が作成する帳簿は、その販売場ごとに常時備え付けておき、帳簿閉鎖後5年間保存する必要があります。

## 2 申告義務

酒類販売業者は、次の事項について販売場等の所轄税務署長に申告等を行う必要があります。なお、以下の申告等は、e-Taxにより行うことができます。

### 【毎年度報告を要するもの】

報告事項	報告期限	様式
毎年度（4月1日から翌年3月31日）の酒類の品目別販売数量の合計数量及び年度末（3月31日）の在庫数量	翌年度の 4月30日まで	CC1-5604「酒類の 販売数量等報告書」

### 【次の事由が生じる都度、申告等を要するもの】

事由	申告等事項	申告等期限	様式
住所及び氏名又は名称、販売場の所在地若しくは名称に異動があった場合 (注1)	異動があった住所及び氏名又は名称、販売場の所在地若しくは名称	直ちに（事由が生じた後、すぐに）	CC1-5612「異動申告書」
酒類の販売業を休止する場合又は再開する場合	酒類の販売業を休止する旨又は再開する旨	遅滞なく（事由が生じた後、できる限り早く）	CC1-5607「酒類・酒母・もろみ 製造・販売業 休止・開始（異動）申告書」
免許を受けた販売場と異なる場所に酒類の貯蔵のための倉庫等を設ける場合又はその倉庫等を廃止する場合 (注2)	酒類の貯蔵のための倉庫等を設ける旨又はその倉庫を廃止する旨	あらかじめ	CC1-5156「酒類蔵置所 設置・廃止報告書」
税務署長から、酒類の販売先（酒場、料理店等）の住所、氏名又は名称の報告を求められた場合	酒類の販売先（酒場、料理店等）の住所、氏名又は名称等	別途定める日まで	CC1-5605「酒類の販売先等報告書（平成 年 月 日現在）」

(注1) 1 「住所及び氏名又は名称の異動」には、株式会社と持分会社（合名・合資・合同会社）間の組織変更、持分会社間の会社種類の変更を含みます。

- 2 販売場の所在地の異動とは、区画整理等による地名、地番の呼称変更をいいます。
- 3 販売場を他の場所に移動する場合には、この異動申告とは別に所轄税務署長の許可を受ける必要があります（13頁「3 免許取得後における免許に関する各種手続」参照）。

- (注2) 1 免許を受けていない倉庫等で酒類の販売契約の締結（受注行為）を行うことはできません。
- 2 「酒類蔵置所設置・廃止報告書」は、倉庫等を利用する自己の販売場の所在地の所轄税務署長あるいは、倉庫等の所在地が当該販売場の所在地の所轄税務署の管轄区域外である場合には、当該倉庫等の所在地の所轄税務署長に提出してください。

### 3 免許取得後における免許に関する各種手続

通信販売酒類小売業免許を受けてから、次の事由等が生じる場合、以下の手続を行う必要があります。

なお、以下の手続は、e-Tax により行うことができます。

事由	様式	提出先	提出期限
酒類販売業者が販売場を移転しようとする場合	CC1-5126「酒類販売場移転許可申請書」	移転前の販売場の所在地の所轄税務署長を経由して、移転先の販売場の所在地の所轄税務署長	あらかじめ <sup>(注1)</sup>
酒類販売業を廃止しようとする場合（免許を受けている複数販売場の全部又は一部を廃止しようとするときを含みます。）	CC1-5136「酒類販売業・販売代理（媒介）業 免許取消申請書」	販売場の所在地の所轄税務署長	廃止しようとするとき
酒類販売業者につき相続が発生し、相続人が引き続き酒類販売業を継続しようとする場合	CC1-5131「酒類・酒母・もろみ 製造業・販売業 相続申告書」	販売場の所在地の所轄税務署長	遅滞なく（事由が生じた後、できる限り早く）
酒類販売業者が法人成り等 <sup>(注2)</sup> をする場合	CC1-5104「酒類販売業免許申請書」 CC1-5136「酒類販売業・販売代理（媒介）業 免許取消申請書」	販売場の所在地の所轄税務署長	あらかじめ同時に <sup>(注1)</sup>

(注) 1 申請書類の審査の期間（標準処理期間2か月）を考慮して提出してください。

2 「法人成り等」とは、①法人成り、②法人の合併、③会社分割及び④営業の承継をいいます。

## 4 酒類業組合法上の義務

酒類小売業者には、酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律（以下「酒類業組合法」といいます。）の規定により、次のような義務が課されています。

### 1 酒類販売管理者の選任義務

酒類小売業者は、販売場ごとに、酒類小売業免許を受けた後遅滞なく、酒類の販売業務に従事する者のうちから「酒類販売管理者」を選任しなければなりません。

酒類小売業者（法人であるときはその役員）自身が酒類販売業務に従事する場合には、自ら酒類販売管理者となることができます。

また、選任された酒類販売管理者は、酒類小売業者又は酒類の販売業務に従事する使用人等に対し、これらの者が酒類の販売業務に関する以下のような法令の規定を遵守してその業務を実施するため、必要な助言又は指導を行う必要があります。

- ・酒税法
- ・酒類業組合法
- ・未成年者飲酒禁止法
- ・容器包装リサイクル法（容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律）
- ・独占禁止法（私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律）
- ・不当景品類及び不当表示防止法

なお、酒類小売業者は、酒類販売管理者が行う助言を尊重しなければなりません。

酒類販売管理者を選任しなかった場合には、50万円以下の罰金に処されることとされています。

### 2 酒類販売管理者選任の届出義務

酒類小売業者は、酒類販売管理者を選任し、又は解任したときは、2週間以内に、その旨を所轄税務署長に届け出なければなりません（記載例及び様式については、59及び60頁の「酒類販売管理者選任（解任）届出書（記載例及び様式）」を参照してください。）。この届出を怠った場合には、10万円以下の過料に処されることとされています。

なお、届出書の提出はe-Taxにより行うことができます。

### 3 酒類販売管理者に研修を受講させるよう努める義務

酒類小売業者は、酒類販売管理者に、その選任の日から3か月以内に財務大臣が指定する団体（小売酒販組合等）が実施する酒類販売管理研修を受講させるよう努めなければなりません。

酒類販売管理研修の実施団体及び連絡先等は、所轄税務署を担当する酒類指導官へお問い合わせいただくか、国税庁ホームページ(<http://www.nta.go.jp/>)『ホーム>税について調べる>お酒に関する情報>酒類の販売管理>酒類販売管理研修実施団体の指定状況等及び研修実施予定について』をご覧ください。

（注）1 酒類販売管理研修は、免許を受ける前や酒類販売管理者として選任される前でも受講することができます。

きますので、できるだけ早期に受講させるようにしてください。

- 2 酒類販売管理研修の受講の申込みについては、直接、研修実施団体にお問い合わせください。
- 3 定期的に研修を受講して常に新たな知識を習得していただく必要があることから、概ね3年を経過するごとに改めて研修を受講させるようお願いします。

#### 4 表示基準の遵守

酒類小売業者は、未成年者の飲酒防止に関する表示基準（平成元年11月22日国税庁告示第9号。以下「表示基準」といいます。）を遵守しなければなりません。表示基準の概要は次のとおりです。

なお、表示基準を遵守しなかった場合には、指示・公表・命令を受けることがあり、命令に違反した者は、50万円以下の罰金に処されることとされています。

これを受けて酒税法は、酒類販売業者が酒類業組合法違反により罰金刑に処せられた場合を酒類販売業免許の取消要件としています。

- (1) ①広告又はカタログ等（インターネット等によるものを含みます。）に「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」又は「未成年者に対しては酒類を販売しない」旨、②申込書等の書類（インターネット等により申込みを受ける場合には申込みに関する画面）に、申込者の年齢記載欄を設けた上で、その近接する場所に「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」又は「未成年者に対しては酒類を販売しない」旨、③納品書等の書類（インターネット等による通知を含みます。）に「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」旨を表示してください。
- (2) (1)の事項は、明りょうに表示するものとし、表示に使用する文字は、10ポイントの活字（インターネット等による場合には酒類の価格表示に使用している文字）以上の大きさの統一のとれた日本文字としてください。

（参考）酒類業組合法に基づく表示の基準は、上記の他に、清酒の製法品質表示基準（平成元年11月22日国税庁告示第8号）、酒類における有機の表示基準（平成12年12月26日国税庁告示第7号）、果実酒等の製法品質表示基準（平成27年10月30日国税庁告示第18号）、酒類の地理的表示に関する表示基準（平成27年10月30日国税庁告示第19号）があります。

※ 税務署では、酒類小売業者に対し、毎年4月1日現在における「未成年者の飲酒防止に関する表示基準」の実施状況等に関する報告書の提出をお願いしています。  
なお、この報告書の提出は、国税電子申告・納税システム（e-Tax）により行うことができます。

### 5 社会的要請への適切な対応（主なもの）

酒類販売業者には、酒税法、酒類業組合法以外にも、以下の事項をはじめとする様々な社会的要請に対し、適正かつ確実な対応が求められています。

#### 1 未成年者の飲酒防止

未成年者の飲酒を防止するため、成人であることを確認した上で酒類を販売してください。

未成年者飲酒禁止法においては、酒類販売業者又は料理飲食業者などに①未成年者が飲用に供

することを知って酒類を販売又は供与することを禁じ（1条3項）、②年齢の確認その他の必要な措置を講じる旨の義務を課しています（1条4項）。また、①の禁止規定に違反した場合には50万円以下の罰金に処されることとされています。

なお、これを受けて酒税法は、酒類販売業者が未成年者飲酒禁止法違反により罰金刑に処せられた場合を酒類販売業免許の取消要件としています。

## 2 公正な取引の確保

酒類業が健全に発達するとともに、消費者の利益を実現していくためには、事業者間の競争は公正な取引ルールの下で行われることが必要です。

国税庁では、酒類取引に関する公正な取引の在り方（①合理的な価格の設定、②取引先等の公正な取扱い、③公正な取引条件の設定及び④透明かつ合理的なリベート類）及び取引状況等実態調査の実施等を示した「酒類に関する公正な取引のための指針」（以下「指針」といいます。）を定め、酒類業者へ積極的に周知し公正取引の重要性を啓発するなど、公正な取引環境の整備に向けた業界の自主的な取組を促進しています。

また、独占禁止法は、不当廉売、差別対価などの不公正な取引方法を禁止しています。公正取引委員会では、酒類の流通における公正な競争を図るため、平成21年12月に「酒類の流通における不当廉売、差別対価等への対応について」及び「不当廉売に関する独占禁止法上の考え方」を発出しています。

独占禁止法を遵守するとともに、国税庁の「指針」に示された公正なルールに沿った取引を行ってください。

詳細については「酒類に関する公正な取引のための指針」の制定について（平成18年8月31日）をご覧ください。

国税庁ホームページ(<http://www.nta.go.jp/>)『ホーム>税について調べる>お酒に関する情報>酒類の公正取引』に掲載しています。

## 3 酒類容器のリサイクルの推進

容器包装リサイクル法は、消費者が分別排出し、市町村が分別収集し、事業者が再商品化（リサイクル）するといった役割分担の下で効果的なりサイクルシステムを確立し、容器包装廃棄物の減量化、資源の有効利用に取り組んでいくことを基本としており、小売業者の方に対しては、容器包装の使用の合理化や排出抑制に関する取り組みの促進が求められています。

なお、酒類小売業者の方が、次の基準を満たす場合は、販売に用いたレジ袋や包装紙等の容器包装について再商品化義務が生じますので、ご注意ください。

- <基準>
- 主たる事業が小売・卸・サービス業の場合
    - ⇒ 売上高7千万円超又は従業員数5人超の事業者が対象
  - 主たる事業が小売・卸・サービス業以外の場合
    - ⇒ 売上高2億4千万円超又は従業員数20人超の事業者が対象

詳細についてはパンフレット「酒類容器等の3R」をご覧ください。

国税庁ホームページ(<http://www.nta.go.jp/>)『ホーム>税について調べる>お酒に関する情報>環境法令における酒類業者の義務>酒類容器等の3R』に掲載しています。



#### IV 申請書類一覧表

	書類名	留意事項	記載例
申請書	酒類販売業免許申請書	必要事項を記載してください。	19
	販売業免許申請書次葉1「販売場の敷地の状況」	建物の一部であっても建物の全体図にその位置を示してください。	22
	販売業免許申請書次葉2「建物等の配置図」	倉庫部分や、酒類の受注に係る業務を行う場所について明示してください。	23
	販売業免許申請書次葉3「事業の概要」	店舗等の広さ、什器備品等について記載してください。	24
	販売業免許申請書次葉4「収支の見込み」	事業計画、規模にあった収支見込みを作成してください。	25～27
	販売業免許申請書次葉5「所要資金の額及び調達方法」	自己資金の場合は資金捻出の根拠説明書、融資の場合は融資証明書を添付してください。	28
	販売業免許申請書次葉6「酒類の販売管理の方法」に関する取組計画書	「酒類の販売管理の方法」に関する取組計画書を記載してください。	29～30
	<p><b>※ 申請書次葉1～申請書次葉5については、この様式に限ることなく、同等のものを添付しても差し支えありません。</b></p>		
添付書類	② 通信販売酒類小売業免許申請書チェック表	添付書類を確認しチェックしてください。	32～33
	③ 酒類販売業免許の免許要件誓約書 (通信販売酒類小売業免許申請用) (注1)	申請者、申請者の法定代理人、申請法人の役員及び申請販売場の支配人について、提出してください。	34～36
	④ 法人の登記事項証明書及び定款の写し (注2)	登記事項証明書は、履歴事項全部証明書に限りません。	38
	⑤ 住民票の写し (注2)	マイナンバー（個人番号）の記載がないものに限りません。	
	⑥ 契約書等の写し	土地、建物、設備等が賃貸借の場合は賃貸借契約書等の写し、建物が未建築の場合は請負契約書等の写し、農地の場合は農地転用許可に係る証明書等の写しを提出してください。	39
	⑦ 土地及び建物の登記事項証明書	登記事項証明書は、全部事項証明書に限りません。 申請販売場の建物が複数の土地（地番）にかかる場合には、そのすべての地番に係る土地の登記事項証明書が必要になります。	
	⑧ 最終事業年度以前3事業年度の財務諸表 (注3)	申請者が個人の場合には、収支計算書等を添付してください。	40
	⑨ 都道府県及び市区町村が発行する納税証明書 (注4)	(1) 都道府県及び(2) 市区町村が発行する納税証明書で、申請者につき各種地方税について、 (イ) 未納の税額がない旨 (ロ) 2年以内に滞納処分を受けたことがない旨 の両方の証明がされたものを添付してください。 法人については、証明事項に「地方法人特別税」を含めてください。	
	⑩ その他参考となるべき書類 (注5)	・申請者自身の職歴を記載した履歴書（法人の場合には、監査役を含めた役員全員の職歴を記載してください）を添付してください。（注2） ・販売しようとする酒類についての説明書、酒類製造者が発行する通信販売の対象となる酒類である旨の証明書等を添付してください。 ・酒類の通信販売における表示を明示したカタログ等（インターネット等によるものを含む。）のレイアウト図、申込書、納品書（案）等を添付してください。	

(注1) 申請者の法定代理人分又は法人の役員分等については、代表者が代表して誓約することができます。

(注2) ④及び⑤の添付書類と⑩のうち履歴書については、申請販売場の所在地を管轄する税務署管内に既に免許を受けた酒類販売場を有している場合には添付を省略することができます。

(注3) 申請者の所得税又は法人税の納税地と申請販売場の所在地が同一税務署管内である場合において、過去3年分の所得税及び法人税の確定申告書（添付書類を含む。）をその税務署に提出しているときは、添付を省略することができます。

(注4) 法人の場合は本店所在地、個人の場合は住所地の属する都道府県及び市区町村が発行する納税証明書を添付してください。

(注5) 税務署長が審査段階で必要と認めた書類については、別途提出を求める場合があります。

## V 申請書及び添付書類の記載例

※ これは、記載例ですので、申請書及び添付書類を作成する際には、ご自分の事業計画等に基づいて作成してください。

①

酒 類 販 売 業 免 許 申 請 書

収 受 印		整理番号	※
平成〇〇年〇〇月〇〇日	申 請 者	(住所) 〒100-〇〇〇〇 東京都千代田区霞が関〇丁目〇番〇号 (氏名又は名称及び代表者氏名) (ふりがな) 〇〇商事株式会社 代表取締役 〇〇太郎 印	(電話) 03-〇〇〇〇 局 〇〇〇〇 番 法人の場合、代表者印 を押印します。
麹町 税務署長 殿		ふりがなを忘れずに	
酒類の販売業免許を受けたいので、酒税法第9条 下記のとおり申請します。			
販売場の 所在地 及び名称		申請販売場の建物が複数の土地(地番)にかか る場合、申請販売場の建物の登記事項証明書 を確認し、すべての土地の地番を記載します。	
(地番) 東京都千代田区大手町〇丁目〇番〇、△番△		郵便番号の記載を お願いします。	
(住居表示) 〒100-〇〇〇〇 東京都千代田区大手町〇丁目〇番〇号		面のとおり)	
(ふりがな) 〇〇通販ショップ		いずれかの口にチェックを 忘れずに	
(電話) 03-〇〇〇〇-〇〇〇〇			
業 態		<input type="checkbox"/> 一般酒飯店 <input type="checkbox"/> コンビニエンスストア <input type="checkbox"/> スーパーマーケット <input type="checkbox"/> 百貨店 <input type="checkbox"/> 量販店 <input checked="" type="checkbox"/> 業務用卸主体店 <input type="checkbox"/> ホームセンター <input type="checkbox"/> ドラッグストア <input checked="" type="checkbox"/> その他(インターネット販売及び通信販売)	
酒類販売管理者 の選任(予定)		(ふりがな) 〇〇次郎 (氏名) 〇〇次郎 (役職、申請者との関係、生年月日等) 〇〇通販ショップ 店長 昭和45年1月11日生	
申請する販売業 免許等の種類		通信販売酒類小売業免許 ふりがなを忘れずに	
販売しようとする酒類の品目 の範囲及び 販売方法		販売する酒類の範囲は、輸入酒類に限る。 酒類の販売方法は、2都道府県以上の広範な地域の消費者等を対象として、 カタログ等(インターネット等によるものを含む。)を使用して販売のための 誘引行為を行い、通信手段により購入の申込みを受け、配達により商品の引渡 しを行う小売販売で、かつ、酒類の購入申込者が未成年者でないことを確認で きる手段を講ずる場合に限る。	
臨時販売場の 開設区分		開設期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで
申請の理由		日本国内において、海外酒類をインターネット等の通信手段を使用し て販売することで、更なる事業の発展を図るため。	
既に有している 主たる酒類 販売場の明細		所在地	酒類の通信販売を始めようとする理由 を具体的に記載してください。
		名称	所轄税務署名
			税務署
受理番号	※	審査順位	※
申請書入力	※	※	※
(月日)		※	※
		局署番号	※

(注) 20及び21頁の「通信販売酒類小売業免許申請書の書き方」を参考の上、記載してください。

## 通信販売酒類小売業免許申請書の書き方

- 1 「申請者」欄の「氏名又は名称及び代表者氏名」、「販売場の所在地及び名称」欄の「名称」及び「酒類販売管理者の選任（予定）」欄の「氏名」には、必ずふりがなを記載してください。
- 2 「販売場の所在地及び名称」欄には、次により具体的に記載するとともに、その位置を明瞭に記載した図面として申請書次葉1「販売場の敷地の状況」を作成してください。
  - (1) 「地番」欄には、不動産登記法（平成16年法律第123号）の規定による地番（土地の登記事項証明書の地番）を記載してください。

なお、申請販売場の建物が複数の土地（地番）にかかる場合には、すべての地番を記載します。
  - (2) 「住居表示」欄には、住居表示に関する法律（昭和37年法律第119号）により市町村が定めた住居表示を記載してください。
  - (3) 「名称」欄には、例えば、「〇〇酒店」、「本社」、「本店」、「〇〇支店」、「〇〇営業所」等と記載してください。
- 3 「業態」欄には、次の区分により□にチェックをしてください。

（業態の区分）

  - ①一般酒販店（酒屋、酒類専門店等）、②コンビニエンスストア、③スーパーマーケット、④百貨店、⑤量販店（①～④以外の量販店：ディスカウントストア等）、⑥業務用卸主体店、⑦ホームセンター、⑧ドラッグストア、⑨その他・・・①から⑧までに該当しない業態の店舗で、具体的に記載してください。

（例：ギフトショップ、ピザ宅配店、弁当・惣菜店、米穀店、果物店、生花店、菓子店など）
- 4 「酒類販売管理者の選任（予定）」欄には、酒類販売管理者として選任を予定している方の氏名及び役職等を記載してください。
- 5 「申請する販売業免許等の種類」欄には、「通信販売酒類小売業免許」と記載してください。
- 6 「販売しようとする酒類の品目の範囲及び販売方法」欄は、以下の記載例を参考の上、記載してください。

### 【記載例1】

《国内で特定製造者により製造された清酒、単式蒸留しょうちゅうを販売しようとする場合》

「販売する酒類の範囲は、国産酒類のうち次に該当する清酒及び単式蒸留しょうちゅうに限る。

カタログ等（インターネット等によるものを含む。）の発行年月日の属する会計年度（4月1日から翌年の3月31日までの期間をいう。）の前会計年度における酒類の品目ごとの課税移出数量が、全て3,000キロリットル未満である酒類製造者が製造、販売する酒類。

酒類の販売方法は、2都道府県以上の広範な地域の消費者等を対象としてカタログ等（インターネット等によるものを含む。）を使用して販売のための誘引行為を行い、通信手段により購入の申込みを受け、配達により商品の引渡しを行う小売販売で、かつ、酒類の購入申込者が未成年者でないことを確認できる手段を講ずる場合に限る。」

### 【記載例2】

《輸入した果実酒を販売しようとする場合》

「販売する酒類の範囲は、輸入酒類に限る。

酒類の販売方法は、2都道府県以上の広範な地域の消費者等を対象としてカタログ等（インターネット等によるものを含む。）を使用して販売のための誘引行為を行い、通信手段により購入の申込みを受け、配達により商品の引渡しを行う小売販売で、かつ、酒類の購入申込者が未成年者でないことを確認できる手段を

講ずる場合に限る。」

**【記載例3】**

《国内で特定製造者により製造された清酒と、輸入した果実酒を販売しようとする場合》

「販売する酒類の範囲は、輸入酒類及び国産酒類のうち次に該当する清酒に限る。

カタログ等（インターネット等によるものを含む。）の発行年月日の属する会計年度（4月1日から翌年の3月31日までの期間をいう。）の前会計年度における酒類の品目ごとの課税移出数量が、全て3,000キロリットル未満である酒類製造者が製造、販売する酒類。

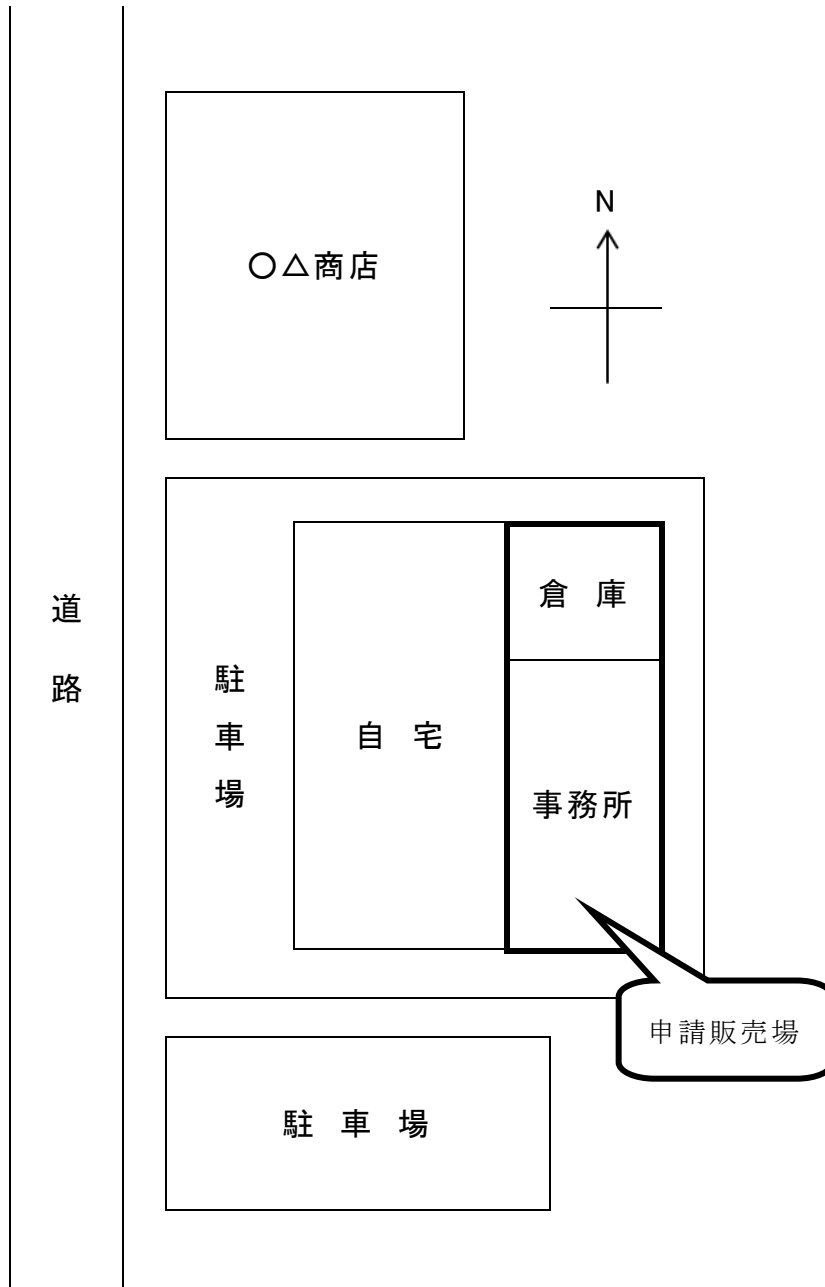
酒類の販売方法は、2都道府県以上の広範な地域の消費者等を対象としてカタログ等（インターネット等によるものを含む。）を使用して販売のための誘引行為を行い、通信手段により購入の申込みを受け、配達により商品の引渡しを行う小売販売で、かつ、酒類の購入申込者が未成年者でないことを確認できる手段を講ずる場合に限る。」

- 7 「既に有している主たる酒類販売場の明細」欄には、既に免許を受けている酒類販売場のうち主たる酒類販売場の所在地、名称及びその所在地を所轄する税務署名を記載してください。
- 8 関係書類は、17頁「**IV 申請書類一覧表**」の必要書類を添付し、53及び54頁「**通信販売酒類小売業免許申請書チェック表**」により添付漏れがないか確認してください。  
なお、この冊子の添付書類の記載例は一例ですから、実際に必要な添付書類及びその作成方法等については、必要に応じて所轄税務署を担当する酒類指導官に確認してください。
- 9 ※欄は、「税務署処理」欄ですから記載しないでください。
- 10 「特定製造者」とは、国産酒類のうち、カタログ等の発行年月日の属する会計年度（4月1日から翌年3月31日までの期間をいいます。）の前会計年度における酒類の品目ごとの課税移出数量が、全て3,000キロリットル未満である酒類製造者をいいます。

e-Taxを利用して申請する場合で、インターネット登記情報提供サービスを利用して登記事項証明書を添付しようとする場合は、「販売しようとする酒類の品目の範囲及び販売方法」欄に、同サービスから発行された「照会番号」、「照会番号の発行年月日（西暦）」を入力してください。

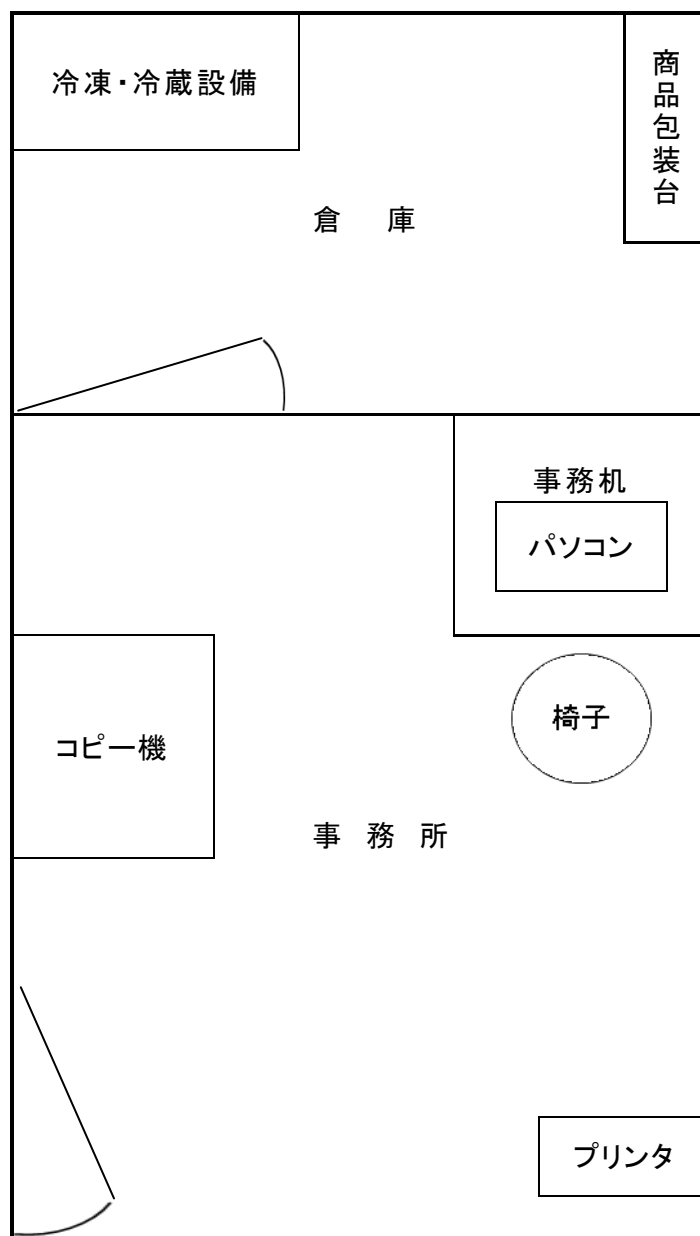
販売場の敷地の状況

(所在地) 東京都千代田区大手町〇丁目〇番〇、△番△



(注) 申請販売場が建物の一部である場合は、建物の全体図（申請販売場のある階の部分）に、その位置を明示してください。

建物等の配置図（建物の構造を示す図面）



(注) 申請販売場と一体として機能する倉庫等についても明示してください。

## 事業の概要（販売設備状況書）

区 分	数量等
(1) 敷 地 ( <del>自己所有</del> ・借地)	205 m <sup>2</sup>
(2) 建 物 (自己所有・借 <del>用</del> ) ( <del>平成 年 月 日完成予定</del> )	168 m <sup>2</sup>
イ 店 舗	— m <sup>2</sup>
ロ 事務所	10 m <sup>2</sup>
ハ 倉 庫	18 m <sup>2</sup>
ニ 駐車場	20 m <sup>2</sup>
ホ	
ヘ	
(3) 車両運搬具 (自己所有・借 <del>用</del> )	
イ 軽トラック	1 台
ロ	
ハ	
ニ	
(4) 什器備品 ( <del>自己所有</del> ・借 <del>用</del> )	
イ パソコン	1 台
ロ プリンタ	1 台
ハ 冷凍・冷蔵設備	1 基
ニ 事務机・椅子	1 組
ホ 商品包装台	1 台
ヘ コピー機	1 台
ト	
チ	
リ	
ヌ	
(5) 従業員	常用
	2 人
	アルバイト
	17 人

(注) 賃貸借がある場合には契約書等の写し、建築中の場合は請負契約書等の写し、農地の場合は農地転用許可にかかる証明書等の写しを添付してください。



**収支の見込み（兼事業の概要付表）**

1	酒類の予定仕入先	(取引先名) 〇〇WINES 〇〇WINERY	(所在地) 〇〇Road 〇〇〇〇			
		取引を予定している酒類卸売業者又は酒類製造者を記載してください。				
2	酒類の予定販売先	(取引先名)	(所在地)			
		インターネット等の通信手段により受注販売するため、 全国のHP閲覧者				
3	収支見積					
収 入 の 部	(1)酒類の売上数量及び金額					
	区 分	容器の容量	本数	単価	売上数量	売上金額
	清 酒	ml —	本 —	円 —	ℓ —	円 —
	合成清酒	—	—	—	—	—
	連続式蒸留しょうちゅう	—	—	—	—	—
	単式蒸留しょうちゅう	—	—	—	—	—
	みりん	—	—	—	—	—
	ビール	—	—	—	—	—
	果実酒	720	1,200	9,000	864	10,800,000
	甘味果実酒	—	—	—	—	—
	ウイスキー	—	—	—	—	—
	ブランデー	—	—	—	—	—
	発泡酒	—	—	—	—	—
	その他の醸造酒	—	—	—	—	—
	スピリッツ	—	—	—	—	—
リキュール	—	—	—	—	—	
粉末酒	—	—	—	—	—	
雑酒	—	—	—	—	—	
合 計					864	10,800,000
(2)その他の商品の売上金額					199,640,000	
(3)その他の収入 (不動産貸付業)					4,800,000	
A 収入金額合計 (1) + (2) + (3)					215,240,000	

支 出 の 部	(1)期首棚卸商品					円 5,400,000
	(2)酒類の仕入数量及び金額					
	区 分	容器の容量	本数	単価	仕入数量	仕入金額
		ml	本	円	ℓ	円
	清 酒	—	—	—	—	—
	合成清酒	—	—	—	—	—
	連続式蒸留しょうちゆう	—	—	—	—	—
	単式蒸留しょうちゆう	—	—	—	—	—
	みりん	—	—	—	—	—
	ビール	—	—	—	—	—
	果 実 酒	720	1,300	7,200	936	9,360,000
	甘味果実酒	—	—	—	—	—
	ウイスキー	—	—	—	—	—
	ブランデー	—	—	—	—	—
	発泡酒	—	—	—	—	—
	その他の醸造酒	—	—	—	—	—
	スピリッツ	—	—	—	—	—
	リキュール	—	—	—	—	—
	粉末酒	—	—	—	—	—
	雑酒	—	—	—	—	—
合 計					936	9,360,000
(3)その他の商品の仕入金額					171,300,000	
仕入金額合計 (2) + (3)					180,660,000	
期末棚卸商品					5,800,000	
B 売上原価合計 (1) + 仕入金額合計 - 期末棚卸商品					180,260,000	
C 売上総利益 (A - B)					34,980,000	
D 販売費及び一般管理費					27,300,000	
(内訳)	科目	金額(円)		科目	金額(円)	
	人件費	20,000,000		水道光熱費	200,000	
	減価償却費	2,500,000		運搬費	400,000	
	賃借料	1,800,000		通信費	200,000	
	消耗品費	300,000		公租公課	1,000,000	
	広告宣伝費	400,000		その他雑費	500,000	
E 営業利益 (C - D)					7,680,000	

F	その他の収益	3,100,000
G	その他の費用	1,500,000
H	総利益金額 (E + F - G)	9,280,000

4 販売見込数量の算出根拠

全国の消費者が対象となるため、平成〇年度の全国の酒類消費量（国税庁統計年報書（平成〇年度版））から算出しました。

取り扱う酒類の販売価格帯から、1ヶ月の販売見込数量を約100本（1日約3本強）として算出しました。

5 その他参考事項（定休日、営業時間など）

営業時間：24時間（年中無休）

発送業務等については、月～金曜日

## 所要資金の額及び調達方法

1 所要資金の算出根拠	
(1)	仕入（見込み）
①	酒類の年間仕入額 <span style="float: right;">9,360 千円</span>
②	酒類の月間仕入額（①×1/12） <span style="float: right;">780 千円</span>
③	在庫（②×1/2） <span style="float: right;">390 千円</span>
④	最初の月の所要資金（②+③） <span style="float: right;">1,170 千円</span>
※ 酒類の商品回転率を月間1回転としました。最初の月の所要資金として、月間仕入金額に在庫分として1/2月分を加算しました。	
(2)	設備 酒類の販売のため、新たに冷蔵設備を設置します。 ・ 冷蔵設備（工事費込） <span style="float: right;">3,000 千円</span>
<span style="float: right;">千円</span>	
<span style="float: right;">千円</span>	
(3)	予備費 酒類販売の所要資金として、5,000千円を充当しますが、そのうち最初の所要資金として、4,170千円を必要とし、およそ830千円を酒類販売に係る予備費とします。
2 所有資金	
(1)	当座預金 <span style="float: right;">10,000 千円</span>
(2)	普通預金 <span style="float: right;">2,000 千円</span>
(3)	定期預金 <span style="float: right;">5,000 千円</span>
(4)	<span style="float: right;">千円</span>
※ 酒類販売に要する資金として、当座預金から5,000千円を充当します。	
3	以上のとおり、自己資金で十分と考えますが、更なる資金が必要となった場合には、別添「融資証明書」記載のとおり融資が受けられます。

※ 上記は一例であり、事業計画にあわせ作成してください。

（例）所要資金の調達方法についての書類

1 自己資金の場合

「資金繰表」、「資金捻出の根拠説明書」、「残高証明書」又は「預金通帳等の写し（預金者名及び残高が分かるもの）」

2 融資による場合

(1) 金融機関からの融資

「借入をする金融機関の融資証明書」

(2) 金融機関以外からの融資

「融資者の原資内容を証明する書類」

「酒類の販売管理の方法」に関する取組計画書					
(選任予定の酒類販売管理者の氏名及び年齢) 〇〇次郎(40歳)		(酒類小売販売場の所在地及び名称) 千代田区大手町〇丁目〇番〇、△番△ 〇〇通販ショップ			
(酒類販売管理研修の受講予定等) 実施団体：〇〇小売酒販組合 受講予定月：平成〇〇年〇月		(店舗全体の面積) 28㎡	(営業時間) 時 分～ 時 分 <b>24時間</b>		
		(酒類売場の面積) 10㎡	—(定休日：)—		
(酒類販売管理者に代わる責任者(予定者)の人数及び氏名等) 総数：1名					
氏名(年齢)	指名の基準	氏名(年齢)	指名の基準	氏名(年齢)	指名の基準
〇〇三郎(31歳)	(7)	( 歳)		( 歳)	
( 歳)		( 歳)		( 歳)	
( 歳)		( 歳)		( 歳)	
(注)「指名の基準」欄には、次の《責任者の指名の基準》のいずれかに該当する番号を記載してください。					
《責任者の指名の基準》					
以下(1)～(7)に掲げるいずれかに該当する場合には、当該販売場において酒類の販売業務に従事する者の中から酒類販売管理者に代わる者を責任者として必要な人数を指名し、配置させる必要があります。					
(1) 夜間(午後11時から翌日午前5時)において、酒類の販売を行う場合(成年者の指名をお願いします。)					
(2) 酒類販売管理者が常態として、その選任された販売場に長時間(2～3時間以上)不在となることがある場合					
(3) 酒類売場の面積が著しく大きい場合(100平方メートルを超えるごとに、1名以上の責任者を指名)					
(4) 同一建物内において酒類売場を設置している階が複数ある場合(酒類販売管理者のいない各階ごとに、1名以上の責任者を指名)					
(5) 同一の階にある複数の酒類売場が著しく離れている場合(20メートル以上離れている場合)					
(6) 複数の酒類売場が著しく離れていない場合であっても、同一の階において酒類売場の点在が著しい場合(3箇所以上ある場合)					
(7) その他酒類販売管理者のみでは酒類の適正な販売管理の確保が困難と認められる場合					
(申請する免許の条件)					
1：卸売業 2：小売業(卸)		申請書に記載したものと同一業態等の区分に〇印を付してください。		開始希望日：平成 年 月 日)	
(小売販売場の業態等の区分)					
1：一般酒販店(酒屋、酒類専門店等) 2：コンビニエンスストア 3：スーパーマーケット 4：百貨店					
5：量販店(ディスカウントストア等) 6：業務用卸主体店 7：ホームセンター 8：ドラッグストア					
9：その他(インターネット販売及び通信販売)					
※「9：その他」については、具体的に記載してください。					
酒類の販売業免許の申請書の記載事項である「酒類の販売管理の方法」については、本様式に記載する方法によるものとします。					
氏名の掲示は酒類販売管理者本人の同意が必要です。					
		区分	※ 税務署整理欄(実態確認状況)		
酒類販売管理者関係	1 販売場の見やすい場所に酒類販売管理者の氏名を掲示する。	はい	いい	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
	2 販売場の見やすい場所に酒類販売管理研修の受講事績を掲示する。	はい	いい	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
未成年者の飲酒防止関係	1 未成年と思われる者に対して、身分証明証等により年齢確認を行う。	はい	いい	<input type="checkbox"/> 適	<input type="checkbox"/> 不適
	2 未成年者の飲酒防止に関するポスターを掲示する。	はい	いい	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
	3 「その他の取組」の概要 [※上記以外の取組をしている場合にその内容を具体的に記載してください。(例)「レジに啓発のためのグッズ等を置く」、「レジ袋に未成年者の飲酒防止啓発のための表示をする」等]	店舗近隣で未成年者飲酒防止街頭キャンペーンがある場合には、積極的にこれに参加する。			

未成年者の飲酒防止に関する表示基準の実施予定	1 酒類の陳列場所を設けて販売する。	はい・いいえ	
	(1) 消費者が酒類に触れられない状態に置き、手渡しで販売する。	はい・いいえ	
	(2) 酒類と他の商品との売場を壁や間仕切り等で分離又は区分する。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 分離・ <input type="checkbox"/> 区分 <input type="checkbox"/> 不適
	(3) 酒類の陳列場所に、表示基準に則って「酒類の売場である」又は「酒類の陳列場所である」旨の表示を行う。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	(4) 酒類の陳列場所に、表示基準に則って「20歳以上の年齢であることを確認できない場合には酒類を販売しない」旨の表示を行う。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	2 酒類の通信販売（インターネットを含む）を行う。 (注) 1 この表示基準でいう「通信販売」とは、「通信販売酒類小売業免許」を付与されて行うものに限らず、一般酒類小売業者が免許条件の範囲内で行う通信販売を含み、商品の内容・価格などをカタログ、新聞折込チラシなどで提示し、郵便、電話、ファックスなどの方法で注文を受けて行う販売をいいます。 2 「いいえ」に「○」を付した方は、次の(1)及び(2)の記載は不要です。	はい・いいえ	
	(1) 酒類の通信販売（インターネットを含む）における広告、カタログ、申込書、納品書等に、表示基準に則って「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」旨等の表示を行う。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	酒類の購入申込書等に年齢記載欄を設ける。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	(2) 酒類の配達を行う旨のチラシに「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」又は「未成年者に対しては酒類を販売しない」旨の表示を行う。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	3 酒類の自動販売機を設置しない。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

※ 以下は、酒類の自動販売機を設置する予定がない場合には記載する必要はありません。

《酒類の自動販売機に対する表示基準の実施予定》

順	号					※ 税務署整理欄 (実態確認状況)
	自動販売機の設置予定年月	平 年 月	平 年 月	平 年 月	平 年 月	
	自動販売機の種類	改良型・改良型以外	改良型・改良型以外	改良型・改良型以外	改良型・改良型以外	
	自動販売機の設置位置	店内・店外	店内・店外	店内・店外	店内・店外	
未成年者の飲酒防止に関する表示基準の実施予定	未成年者の飲酒は禁止されている旨	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	免許者の氏名又は名称	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	酒類販売管理者の氏名	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	連絡先の所在地及び電話番号	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	販売停止時間	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	販売停止等のためのタイマーの設置の有無	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	セレクトボタン部分への酒類である旨の表示の有無	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適

販売業免許申請書 次葉 6（「酒類の販売管理の方法」に関する取組計画書）の書き方

- 1 該当する「番号」、「はい」・「いいえ」、「有」・「無」等に○印を付してください。
- 2 「※ 税務署整理欄」には、何も記載しないでください。
- 3 「酒類販売管理研修の受講予定等」欄には、酒類販売管理研修の受講予定月及び受講予定の酒類販売管理研修の実施団体を記載してください。
- 4 「小売販売場の業態等の区分」欄は、酒類販売業免許申請書に記載したものと同一業態区分の番号に○を付してください。
- 5 「酒類の通信販売（インターネットを含む）を行う」欄の（注）1の「通信販売酒類小売業免許」とは、「2都道府県以上の広範な地域の消費者等を対象として、商品の内容、販売価格その他の条件をインターネット、カタログの送付等により提示し、郵便、電話その他の通信手段により売買契約の申込みを受けて当該提示した条件に従って酒類の販売を行うことができる販売業免許です。

②

通信販売酒類小売業免許申請書チェック表

※ 通信販売酒類小売業免許申請書の提出時に太線の枠内を記載して、添付してください。

この申請についての連絡先住所、電話番号及び担当者氏名	東京都千代田区霞が関〇丁目〇番〇号 (担当者名 〇山△男 )	〇〇商事(株)総務部 Tel 03 (0000) 0000
----------------------------	-----------------------------------	----------------------------------

《①酒類販売業免許申請書及び申請書次葉1～6》

記載事項	確認事項	確認	税務署 整理欄
販売場の所在地及び名称	・不動産登記法によるすべての地番、住居表示による所在地及び名称等が記載されているか ・ふりがなの記載漏れはないか	○	
申請する販売業免許等の種類	「通信販売酒類小売業免許」と記載されているか	○	
販売業免許申請書次葉1 (販売場の敷地の状況)	建物の全体図に、申請販売場の位置が明示されているか	○	
販売業免許申請書次葉2 (建物等の配置図)	申請販売場と一体として機能する倉庫等は明示されているか	○	
販売業免許申請書次葉3 (事業の概要)	店舗等の広さ、什器備品等について記載もれはないか	○	
販売業免許申請書次葉4 (収支の見込み)	申請販売場の店舗に照らし合わせた合理的な収支見積もりが組まれているか	○	
販売業免許申請書次葉5 (所要資金の額及び調達方法)	自己資金による場合は資金繰表、資金捻出の根拠説明書又は残高証明書等、融資による場合は金融機関の証明書又は融資者の原資内容を証明する書類を添付しているか	○	
販売業免許申請書次葉6 (「酒類の販売管理の方法」に関する取組計画書)	選任予定の酒類販売管理者の氏名及び年齢等が記載されているか	○	

《添付書類》

添付書類は、省略することができる場合がありますので、17頁の下部(注2)及び(注3)をご確認ください。

添付書類	確認事項	確認	税務署 整理欄
②通信販売酒類小売業免許申請書チェック表	申請書の記載事項及び添付書類の確認欄に○印を付しているか	○	
③酒類販売業免許の免許要件誓約書(通信販売酒類小売業免許申請用)	・誓約事項に漏れはないか ・誓約すべき者に漏れはないか(申請者、申請法人の監査役を含めた役員全員、申請者の法定代理人及び申請販売場の支配人)	○	
④法人の登記事項証明書及び定款の写し	履歴事項全部証明書を添付しているか	○	
⑤住民票の写し	マイナンバー(個人番号)の記載がないものであるか	/	
⑥契約書等の写し(申請書次葉3付属書類)	土地、建物、施設又は設備等が賃貸借の場合は賃貸借契約書(写)、建物が未建築の場合は請負契約書(写)、農地の場合は農地転用許可関係書類(写)を添付しているか	○	
⑦土地及び建物の登記事項証明書	・全部事項証明書を添付しているか ・申請販売場の建物が複数の土地にかかる場合には、そのすべての地番に係る土地の登記事項証明書を添付しているか	○	
⑧最終事業年度以前3事業年度の財務諸表	最終事業年度以前3事業年度分があるか(個人の場合には、収支計算書等)	○	
⑨都道府県及び市区町村が発行する納税証明書	・都道府県及び市区町村が発行する納税証明書(未納税額がない旨及び2年以内に滞納処分を受けたことがない旨の証明)をそれぞれ添付しているか ・法人については、証明事項に「地方法人特別税」を含めているか	○	
⑩その他参考となるべき書類	(1)申請者自身の職歴を記載した履歴書(法人の場合には、監査役を含めた役員全員の職歴を記載しているか) (2)販売しようとする酒類についての説明書、酒類製造者が発行する通信販売の対象となる酒類である旨の証明書又は製造委託契約書・同計画書等 (3)酒類の通信販売における表示を明示したカタログ等(インターネット等によるものを含む。)のレイアウト図、申込書、納品書(案)等(次頁の内容についても確認しているか。)	○	



《(3)についての確認事項》	確認	税務署 整理欄
酒類の販売方法等について次の事項を満たしていること	○	
(1) 特定商取引に関する法律の消費者保護関係規定に準拠していること	○	
イ カタログ等(インターネット等によるものを含む。以下同じ。)に次の事項が表示されていること	○	
(イ) 商品の販売価格(販売価格に商品の送料が含まれない場合には、販売価格及び商品の送料)	○	
(ロ) 商品の代金の支払の時期及び方法	○	
(ハ) 商品の引渡時期	○	
(ニ) 商品の引渡しについての特約に関する事項(その特約がない場合には、その旨)	○	
(ホ) 販売業者の氏名又は名称、住所及び電話番号	○	
(ヘ) 法人の場合、インターネット等によるときは、販売業者の代表者又は通信販売に関する業務の責任者の氏名		
(ト) 申込みの有効期限があるときは、その期限	○	
(フ) 上記(イ)以外に購入者が負担すべき金銭があるときは、その内容及びその額	○	
(リ) 商品に隠れた瑕疵がある場合の販売業者の責任についての定めがあるときは、その内容	○	
(ス) 商品の販売数量の制限その他の商品の販売条件があるときは、その内容	○	
(ル) インターネット等によるときは、販売業者の電子メールアドレス	○	
ロ 商品の引渡しをする前に、商品代金の全部又は一部を受領する場合は、申込みを承諾する旨の通知をすることとしていること	○	
(2) 未成年者の飲酒防止に関する表示基準に基づき、カタログ等(インターネット等によるものを含む。)に次の事項が表示されていること	○	
イ 「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」又は「未成年者に対しては酒類を販売しない」旨(カタログ等)	○	
ロ 申込者の年齢記載欄を設けた上で、その近接する場所に「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」又は「未成年者に対しては酒類を販売しない」旨(申込書等)(インターネット等により申込みを受ける場合には申込みに関する画面)	○	
ハ 「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」旨(納品書等)(インターネット等による通知を含む。)	○	
ニ 上記イからハについて、10ポイントの活字(インターネット等による場合には酒類の価格表示に使用している文字)以上の大きさの統一のとれた日本語で明りょうに表示していること	○	

(注) 「確認」欄には、作成した添付書類について、それぞれの確認事項及び添付を確認し、○印(提出しなくても良いもの又は該当がないものについては、確認欄に斜線を引いてください。)を記載してください。

③

酒類販売業免許の免許要件誓約書

(通信販売酒類小売業免許申請用)

麴町 税務署長 殿

(別紙1) 及び (別紙2) を添付してください

申請(申出・申告)販売場の所在地及び名称	東京都千代田区大手町〇丁目〇番〇、△番△ 〇〇通販ショップ
----------------------	----------------------------------

申請(申出・申告)者が個人の場合

私(及び法定代理人)の免許の要件について、別紙1及び2のとおり誓約します。  
 なお、この誓約内容に偽りがあった場合、酒税法の規定により、その事実が①審査段階で判明したときは拒否処分、②免許取得後に判明したときは免許の取消処分を受けることがあることを承知しています。

平成 年 月 日  
 (申請(申出・申告)者の住所)  
 (氏 名) 印

---

下記法定代理人は、誓約内容を確認しているため、各法定代理人それぞれの誓約に代え、代表して誓約します。  
 (法定代理人氏名)

申請者に法定代理人(酒類の販売業に関し代理権を有する方に限る。)がいる場合は、その代表の法定代理人が記載してください。

平成 年 月 日  
 (法定代理人住所)  
 (法定代理人氏名)  
 (申請(申出・申告)者との関係) 印

申請(申出)者が法人の場合

当社及び役員等の免許の要件について、別紙1及び2のとおり誓約します。  
 なお、この誓約内容に偽りがあった場合、酒税法の規定により、その事実が①審査段階で判明したときは拒否処分、②免許取得後に判明したときは免許の取消処分を受けることがあることを承知しています。

平成 〇 年 〇 月 〇 日  
 (申請(申出)者の所在地) 東京都千代田区霞ヶ関〇丁目〇番〇号 (法人代表者印)  
 (名称及び代表者氏名) 〇〇商事株式会社 代表取締役 〇〇太郎 印

---

下記役員等は、誓約内容を確認しているため、各役員等それぞれの誓約に代え、代表して誓約します。

(役職及び氏名)	
代表取締役	〇 〇 太 郎
取締役	〇 〇 花 子
取締役	〇 〇 三 郎
監査役	〇 〇 四 郎
支配人	〇 〇 五 郎

申請法人の監査役を含むすべての役員及び支配人の役職・氏名を記載してください。

代表取締役の方が、代表して誓約してください。

支配人は、支配人登記をした者に限ります。  
 (名 称) 〇〇商事株式会社 (代表者個人印)  
 (代 表 者 氏 名) 代表取締役 〇 〇 太 郎 印

平成 〇 年 〇 月 〇 日

1 / 3 (別紙1及び2を添付して提出してください。)

誓約項目	申請者等の誓約内容			順号
	申請 <del>(申出)</del> 者	役員等	法定代理人	
<b>1 酒税法10条1号から8号関係 (人的要件)</b>				—
1号関係：申請 <del>(申出・申告)</del> 者が酒税法(12条1、2、5号、13条、14条1、2号)の規定により免許を取り消されたことがない又はアルコール事業法の規定により許可を取り消されたことがない。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	①
2号関係：申請 <del>(申出・申告)</del> 者が1号に該当する法人の業務執行役員をしていた者でその取消の日から3年を経過するまでの間の申請 <del>(申出・申告)</del> でない。 ○ 酒類の製造者又は販売業者である法人が、酒税法(12条1、2、5号、13条、14条1、2号)の規定により免許を取り消された法人 ○ アルコール事業法の許可を受けた法人で、同法の規定により許可を取り消された法人	はい <input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> (個人のみ)	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	②
3号関係：申請 <del>(申出・申告)</del> 者が未成年者又は成年被後見人、被保佐人若しくは被補助人のときに、その法定代理人が1、2、7、7の2、8号に該当しない。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> (個人のみ)			③
4号関係：申請 <del>(申出)</del> 者又は法定代理人が法人の場合にその役員が1、2、7、7の2、8号に該当しない。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> (法人のみ)		はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> (法人のみ)	④
5号関係：支配人が1、2、7、7の2、8号に該当する者でない。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>			⑤
6号関係：申請 <del>(申出・申告)</del> 者が免許の申請前2年内において国税又は地方税の滞納処分を受けていない。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>			⑥
7号関係 国税等に関する法律の規定により罰金の刑に処せられ又は通告処分を受けたことがない。 [上記で「いいえ」に○を付した場合] 申請 <del>(申出・申告)</del> 時において、それぞれ、その刑の執行を終わり、若しくは執行を受けることがなくなった日又はその通告の旨を履行した日から3年を経過している。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>	⑦
7号の2 関係 未成年者飲酒禁止法若しくは暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律等の規定により、又は刑法等に定める一定の罪を犯したことにより、罰金の刑に処せられたことがない。 [上記で「いいえ」に○を付した場合] 申請 <del>(申出・申告)</del> 時において、その執行を終わった日又は執行を受けることがなくなった日から3年を経過している。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>	⑧
8号関係 禁錮以上の刑に処せられたことがない。 [上記で「いいえ」に○を付した場合] 申請 <del>(申出・申告)</del> 時において、その執行を終わった日又は執行を受けることがなくなった日から3年を経過している。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> (個人のみ)	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>	⑨
<b>【理由等】</b>	申告内容の「いいえ」に○を付した場合には、順号(丸数字)とその内容及び理由を簡記してください。(以下同じ)			
<b>2 酒税法10条9号関係 (場所的要件)</b> 申請販売場が取締上不適当と認められる場所でない。				—
(1) 申請販売場が酒類の製造場、酒類の販売場、酒場、料理店等と同一場所でない。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>			⑩
(2) 申請販売場の申請者の営業が販売場の区画割り、専属の販売従事者の有無、代金決済の独立性その他販売行為において他の営業主体の営業と明確に区分されている。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>			⑪
<b>【理由等】</b>				

「はい」又は「いいえ」のいずれかに○を付してください。

支配人がいない場合には記載不要です。

誓 約 項 目	申請者等の誓約内容			順 号
	申 請 <del>(申出)</del> 者	役員等	法定代理人	
<b>3 酒税法10条10号関係（経営基礎要件）</b> (注) 酒税法10条10号関係の要件を充足するかどうかについては、次の事項から判断します。				—
(1) 申請 <del>(申出)</del> 者が、破産者で復権を得ていない場合に該当しない。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ			12
(2) 事業経営のための経済的信用の薄弱、経営能力の貧困等経営の基礎が薄弱であると認められない。				—
イ 現に国税若しくは地方税を滞納していない。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ		13
ロ 申請 <del>(申出)</del> 前1年以内に銀行取引停止処分を受けていない。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ		14
ハ 最終事業年度における確定した決算に基づく貸借対照表の繰越損失が資本等の額を上回っていない。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ (法人のみ)	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ		15
ニ 最終事業年度以前3事業年度のすべての事業年度において資本等の額の20%を超える欠損となっていない。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ (法人のみ)	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ		16
ホ 酒税に関係のある法令に違反し、通告処分を受けていない又は告発されていない。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ		17
ヘ 建築基準法等の法令又は条例に違反しており、建物の除却若しくは移転を命じられていない。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ			18
ト 酒類の適正な販売管理体制を構築することができる。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ			19
(3) 申請 <del>(申出)</del> 者は、経験その他から判断し、適正に酒類の通信販売を行うため十分な知識、経営能力及び販売能力を有すると認められる者又はこれらの者が主体となって組織する法人である。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ			20
(4) 申請 <del>(申出)</del> 者は、酒類の販売業を継続して行うために必要な所要資金を賄うに足りる所有資金等を有している。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ			21
(5) 酒類の販売業を継続して行うために必要な販売施設及び設備を有している又は必要な資金を有し免許を付与するまでに販売施設及び設備を有することが確実と認められる。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ			22
(6) 販売方法が特定商取引に関する法律の消費者保護関係規定に準拠し、「未成年者の飲酒防止に関する表示基準」を満たし、又はこの定めを満たすことが確実である。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ			23
(7) 酒類の購入申込者が未成年者でないことを確認できる手段を講ずる。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ			24
【理由等】				
<b>4 酒税法10条11号関係（需給調整要件）</b> 酒税の保全上酒類の需給の均衡を維持する必要があるため、酒類の販売業免許を与えることが適当でないと認められる場合に当たらない。				—
販売しようとする酒類の範囲が、(1)国産酒類のうち、①カタログ等の発行年月日の属する会計年度の前会計年度における酒類の品目ごとの課税移出数量が、全て3,000キロリットル未満である酒類製造者（特定製造者）が製造、販売する酒類、②地方の特産品等（製造委託者が所在する地方の特産品等に限る。）を原料として、特定製造者以外の製造者に製造委託する酒類であり、かつ、当該酒類の一会計年度における製造委託者ごとの製造委託数量の合計が3,000キロリットル未満である酒類、又は、(2)輸入酒類である。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ			25
【理由等】				

「酒類販売業免許の免許要件誓約書（通信販売酒類小売業免許申請用）」の作成に当たっての留意事項

1 この誓約書は、酒類の販売業免許を申請（申出・申告）しようとする場合に、申請（申出・申告）者、その法定代理人、役員又は支配人につき、販売業免許の欠格要件に該当する事実がないことについて誓約を求めるものです。

この誓約の内容を偽るなど不正行為があった場合には、①その不正行為が審査段階で判明したときは拒否処分、②不正行為により販売業免許を取得したときは取消処分の対象となります。

(注) 不正行為により販売業免許を取得した場合は、その不正行為によって取得した免許だけでなく、その者が有しているすべての免許について取消処分を受けることがあります。免許の取消処分を受けた場合には、①取消処分を受けた免許者、②取消処分を受けた免許者が法人であるときにはその法人の業務を執行する役員、及び③これらの者が役員となっている法人は、原則として、新たに酒類の製造及び販売業免許を受けることはできなくなります。

なお、酒類の販売業免許等区分ごとに誓約が必要な事項は、以下の表のとおりです。

誓約関係	免許等区分	販売業 (卸・小売)	条件緩和・ 条件解除	相続
1 人的要件	酒税法10条1号から8号関係	○	○	○
2 場所的要件	〃 9号関係	○	△	△
3 経営基礎要件	〃 10号関係	○	△	△
4 需給調整要件	〃 11号関係	○	○	△
5、6	〃 14条1号関係	△	○	△
その他の要件	〃 3号関係	△	○	△

## 2 記載の仕方

### (1) 誓約が必要な事項

誓約が必要な事項は以下のとおりですが、申請（申出）者が個人か、法人か等により異なりますので注意してください。

イ 申請（申出）者が個人の場合

(イ) 申請（申出）者である個人自身が誓約すべき事項

(誓約書の順号) ①、②、③、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕

(ロ) 申請（申出）者に法定代理人がいる場合に、そのすべての法定代理人が誓約すべき事項

(注) 法定代理人が法人の場合には、その法人のすべての役員も同様に誓約することとなります。  
(誓約書の順号) ①、②、④、⑦、⑧、⑨

ロ 申請（申出）者が法人の場合

(イ) 申請（申出）者である法人自身が誓約すべき事項

(誓約書の順号) ①、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕

(ロ) 法人の役員及び主たる出資者が誓約すべき事項

A 代表権を有する役員及び主たる出資者

(誓約書の順号) ①、②、⑦、⑧、⑨、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰

B A以外の役員

(誓約書の順号) ①、②、⑦、⑧、⑨

(注) 1 申請（申出）者は、自己の誓約内容とともに、法定代理人又は役員、支配人の誓約内容についてもすべて自ら確認した上で、記名・押印してください。

2 法定代理人が複数存在する場合には、個々の法定代理人の誓約に代えて、その代表者において、すべての法定代理人の個々の要件についての誓約を取りまとめて、代表して誓約してください。

3 役員又は支配人が複数存在する場合には、個々の役員又は支配人の誓約に代えて、申請（申出）者たる法人の代表取締役において、すべての役員又は支配人の個々の要件についての誓約をとりまとめて、代表して誓約してください。

### (2) 記入方法

誓約者は、必要な「誓約項目」について、「誓約内容」欄の「はい」又は「いいえ」のいずれかに○を付してください。

なお、誓約内容について「いいえ」に○を付した場合には、「理由等」欄に該当項目の順号を記載した上で、その理由を略記してください（「理由等」欄に記載しきれない場合には、別紙として理由を記載した書面を添付してください。）。

## ④ 法人の登記事項証明書及び定款の写し

(記載例は省略)

《留意事項》

履歴事項の全部を証明した登記事項証明書及び定款の写しを添付してください。

なお、e-Taxを利用して申請する場合は、インターネット登記情報提供サービスによる「登記事項証明書」を添付することができます。

### e-Taxにおける「登記事項証明書」の添付方法

「酒類販売業免許申請書」の「販売しようとする酒類の品目の範囲及び販売方法」欄に次のように「インターネット登記情報提供サービス」から発行された「照会番号」、「照会番号の発行年月日（西暦）」を入力してください。

(入力例) 照会番号：9999999999 発行年月日：YYYY/MM/DD

※ 「インターネット登記情報提供サービス」について詳しいことは、  
(<http://www1.touki.or.jp/gateway.html>)をご覧ください。

※ 申請者が申請販売場の所在地を管轄する税務署管内に既に免許を受けた酒類販売場を有している場合には、添付を省略することができます。

## ⑤ 住民票の写し

(記載例は省略)

《留意事項》

住民票の写しは、マイナンバー（個人番号）の記載がないものに限りです。

※ 申請者が申請販売場の所在地を管轄する税務署管内に既に免許を受けた酒類販売場を有している場合には、添付を省略することができます。

## ⑥ 契 約 書 等 の 写 し

(記載例は省略)

《留意事項》

- 1 申請販売場の土地、建物、設備等が賃借物件の場合  
賃貸借契約書等（申請販売場の建物等を確実に使用できることが確認できる書類）の写し（転貸の場合は所有者から申請者までの賃貸借契約書等の写し）を添付してください。
- 2 申請販売場の建物等が未建築の場合  
請負契約書等（申請販売場の建物等を今後建築することが確認できる書類）の写しを添付してください。  
また、例えば、申請販売場の建築予定地が農地等であり、建物を建築するために農地の転用の許可等を必要とするなど、法令や条例により許可等が必要となる場合には、その許可等の申請に係る関係書類の写しを添付してください。

## ⑦ 土 地 及 び 建 物 の 登 記 事 項 証 明 書

(記載例は省略)

《留意事項》

申請販売場の所在する土地及び建物に係る登記事項の全部を証明した全部事項証明書を添付してください。

申請販売場に係る建物の登記事項証明書の、所在欄に記載されている地番が複数の地番にかかる場合は、そのすべての地番に係る土地の登記事項証明書が必要になります。

なお、e-Taxを利用して申請する場合は、インターネット登記情報提供サービスによる「登記事項証明書」を添付することができます。次の「e-Taxにおける「登記事項証明書」の添付方法」を参照してください。

### e-Taxにおける「登記事項証明書」の添付方法

「酒類販売業免許申請書」の「販売しようとする酒類の品目の範囲及び販売方法」欄に次のように「インターネット登記情報提供サービス」から発行された「照会番号」、「照会番号の発行年月日（西暦）」を入力してください。

(入力例)

照会番号：9999999999 9999999999 9999999999 9999999999  
発行年月日：YYYY/MM/DD

※ 「インターネット登記情報提供サービス」について詳しいことは、<http://www1.touki.or.jp/gateway.html>をご覧ください。

※インターネット登記情報提供サービスによる登記情報を印刷したものは、申請等の添付書類とすることはできません。

## ⑧ 最終事業年度以前3事業年度の財務諸表

(記載例は省略)

《留意事項》

1 申請者が法人の場合

最終事業年度以前3事業年度分の貸借対照表及び損益計算書を添付してください。

なお、この手引きの6頁で説明してあります「3 酒税法10条10号関係の要件（経営基礎要件）」のハ及びニの要件についてもご確認願います。

2 申請者が個人の場合

最近3年間の収支計算書等を添付してください。

※ 申請者の所得税又は法人税の納税地と申請販売場の所在地が同一税務署管内である場合において、過去3年分の所得税又は法人税の確定申告書（添付書類を含む。）をその税務署に提出しているときは、添付を省略することができます。

## ⑨ 都道府県及び市区町村が発行する納税証明書

(記載例は省略)

《留意事項》

1 申請者について、地方税に係る①未納の税額がない旨、②2年以内に滞納処分を受けたことがない旨の両方の証明がされた納税証明書を添付してください。

2 法人については、証明事項に「地方法人特別税」を含めてください。

3 申請者が法人の場合は本店所在地、個人の場合は住所地の属する都道府県及び市区町村から交付を受けてください。

4 同時期に複数の申請書を提出する場合は、そのうちいずれか一つの申請書に納税証明書の原本を添付すれば、他の申請書にはコピーの添付であっても差し支えありません。この場合、納税証明書のコピーに、原本を添付した申請書を提出した税務署名を記載してください。

5 国税（「地方法人特別税」を除きます。）についての納税証明書は添付不要です。



## ⑩ その他参考となるべき書類

### (記載例は省略)

#### 《留意事項》

#### 1 申請者の履歴書

##### ① 申請者が個人の場合

申請者自身の職歴（勤務した会社名、業種、担当事務内容）を記載した履歴書を添付してください。

##### ② 申請者が法人の場合

申請法人の**監査役を含む役員全員**について、それぞれの住所及び職歴（勤務した会社名、業種、担当事務内容）を記載した履歴書を添付してください。

※ 申請者が申請販売場の所在地を管轄する税務署管内に既に免許を受けた酒類販売場を有している場合には、添付を省略することができます。

2 販売しようとする酒類についての説明書を添付してください。

3 販売しようとする酒類が国内で製造された酒類の場合、酒類製造者が発行する通信販売の対象となる酒類である旨の証明書（様式例については61頁参照）又は製造委託契約書・同計画書等を添付してください。

4 酒類の通信販売における表示を明示したカタログ等のレイアウト図、申込書、納品書（案）等を添付してください。

# VI 様式例

※ 次の様式例が次頁以降にありますので、申請書を作成する際には、コピーするなどして使用してください。

	(頁)
① 「酒類販売業免許申請書」	43
販売業免許申請書次葉 1 「販売場の敷地の状況」	44
販売業免許申請書次葉 2 「建物等の配置図」	45
販売業免許申請書次葉 3 「事業の概要」	46
販売業免許申請書次葉 4 「収支の見込み」	47
販売業免許申請書次葉 5 「所要資金の額及び調達方法」	50
販売業免許申請書次葉 6 「『酒類の販売管理の方法』 に関する取組計画書」	51
② 「通信販売酒類小売業免許申請書チェック表」	53
③ 「酒類販売業免許の免許要件誓約書 (通信販売酒類小売業免許申請用)」	55

---

「登録免許税の領収証書提出書」	58
「酒類販売管理者選任(解任)届出書」	60
「証明書」	61

酒 類 販 売 業 免 許 申 請 書

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <span style="font-size: 1.2em;">収 受 印</span> </div>		整理番号	※
平成 年 月 日	申 請 者	(住所) 〒 -	(電話)  局 番
税務署長 殿		(氏名又は名称及び代表者氏名) (ふりがな)	
酒類の販売業免許を受けたいので、酒税法第9条第1項の規定により関係書類を添付して 下記のとおり申請します。 記			
販 売 場 の 所 在 地 及 び 名 称	(地 番)  (詳細は別添図面のとおり) ----- (住居表示) 〒 - ----- (ふりがな) (名 称) (電 話)		
業 態	<input type="checkbox"/> 一般酒販店 <input type="checkbox"/> コンビニエンスストア <input type="checkbox"/> スーパーマーケット <input type="checkbox"/> 百貨店 <input type="checkbox"/> 量販店 <input type="checkbox"/> 業務用卸主体店 <input type="checkbox"/> ホームセンター <input type="checkbox"/> ドラッグストア <input type="checkbox"/> その他 ( )		
酒類販売管理者 の選任(予定)	(ふりがな) (氏名)    [ 役職、申請者との関係、生年月日等 ]		
申請する販売業 免許等の種類			
販売しようとする酒類の品目 の範囲及び 販売方法			
臨時販売場の 開設区分	臨時販売場の 開設期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで	
申 請 の 理 由			
既に有している 主たる酒類 販売場の明細	所在地	名称	所轄税務署名    税務署
受理番号	※	審査順位	※    局署番号    ※
申請書入力	※	( 月 日 )	※    ※    ※

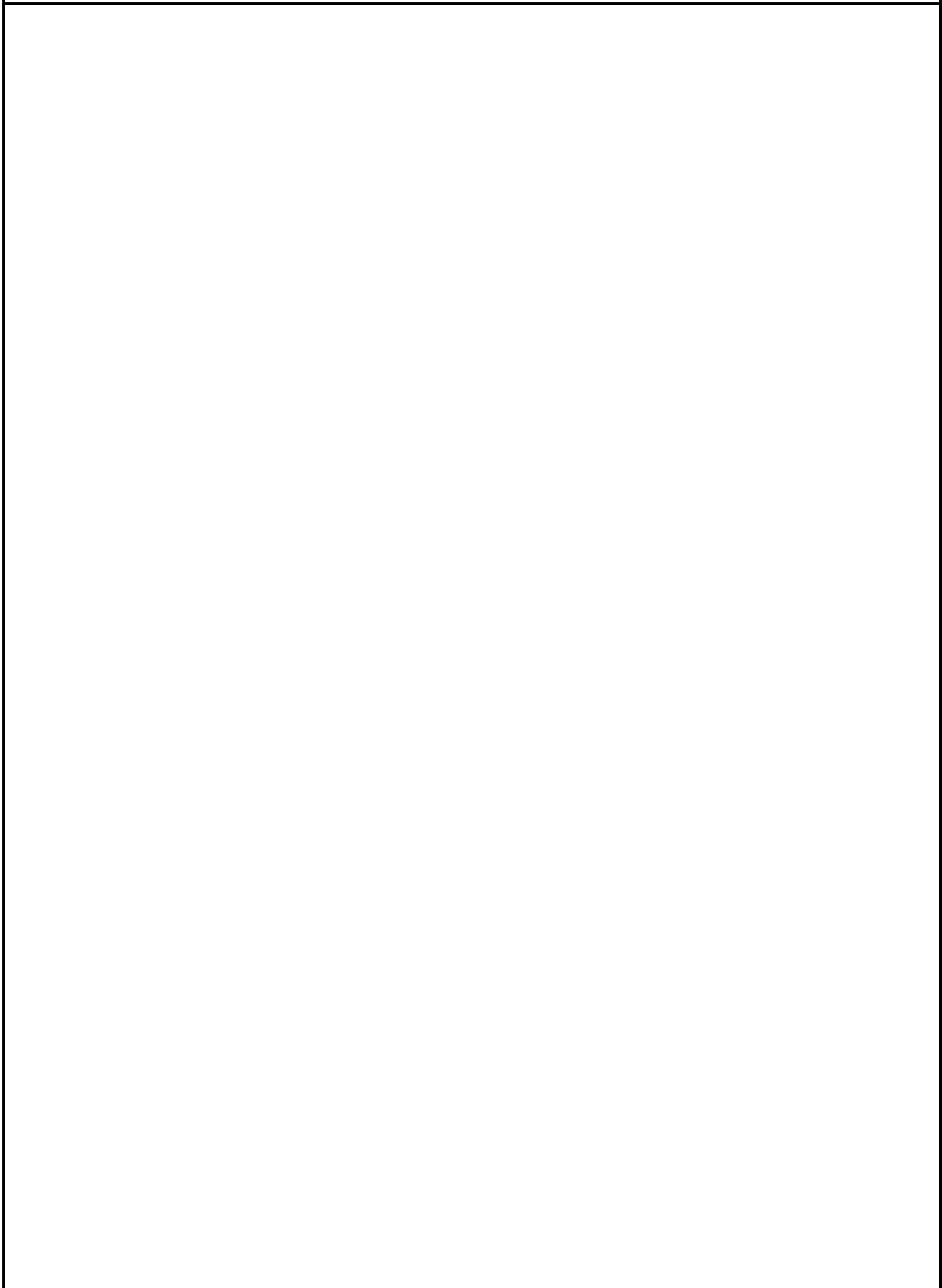
販売場の敷地の状況

(所在地)

-----

(注) 申請販売場が建物の一部である場合は、建物の全体図（申請販売場のある階の部分）に、その位置を明示してください。

建物等の配置図（建物の構造を示す図面）



（注）申請販売場と一体として機能する倉庫等についても明示してください。  
酒類の陳列場所における表示を明示してください。

事業の概要（販売設備状況書）

区 分	数量等
(1) 敷 地 （自己所有・借地）	㎡
(2) 建 物 （自己所有・借用） （平成 年 月 日完成予定）	㎡
イ 店 舗	㎡
ロ 事務所	㎡
ハ 倉 庫	㎡
ニ 駐車場	㎡
ホ	
へ	
(3) 車両運搬具 （自己所有・借用）	
イ	台
ロ	
ハ	
ニ	
(4) 什器備品 （自己所有・借用）	
イ	台
ロ	
ハ	
ニ	
ホ	
へ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
(5) 従業員	人
	人

（注）賃貸借がある場合には契約書等の写し、建築中の場合は請負契約書等の写し、農地の場合は農地転用許可にかかる証明書等の写しを添付してください。

**収支の見込み（兼事業の概要付表）**

1	酒類の予定仕入先	(取引先名)	(所在地)			
2	酒類の予定販売先	(取引先名)	(所在地)			
3	収支見積					
収 入 の 部	(1)酒類の売上数量及び金額					
	区 分	容器の容量 <small>ml</small>	本数 <small>本</small>	単価 <small>円</small>	売上数量 <small>ℓ</small>	売上金額 <small>円</small>
	清 酒					
	合成清酒					
	連続式蒸留しょうちゆう					
	単式蒸留しょうちゆう					
	みりん					
	ビール					
	果実酒					
	甘味果実酒					
	ウイスキー					
	ブランデー					
	発泡酒					
	その他の醸造酒					
	スピリッツ					
	リキュール					
	粉末酒					
雑酒						
合 計						
(2)その他の商品の売上金額						
(3)その他の収入						
A 収入金額合計 (1) + (2) + (3)						

支 出 の 部	(1)期首棚卸商品					円
	(2)酒類の仕入数量及び金額					
	区 分	容器の容量	本数	単価	仕入数量	仕入金額
		ml	本	円	ℓ	円
	清 酒					
	合成清酒					
	連続式蒸留しょうちゆう					
	単式蒸留しょうちゆう					
	みりん					
	ビール					
	果実酒					
	甘味果実酒					
	ウイスキー					
	ブランデー					
	発泡酒					
	その他の醸造酒					
	スピリッツ					
	リキュール					
	粉末酒					
	雑酒					
合 計						
(3)その他の商品の仕入金額						
仕入金額合計 (2) + (3)						
期末棚卸商品						
B 売上原価合計 (1) + 仕入金額合計 - 期末棚卸商品						
C 売上総利益 (A - B)						
D 販売費及び一般管理費						
(内訳)	科目	金額 (円)		科目	金額 (円)	
	人件費					
	減価償却費					
	賃借料					
E 営業利益 (C - D)						



	F その他の収益	
	G その他の費用	
	H 総利益金額 (E + F - G)	
4	販売見込数量の算出根拠	
5	その他参考事項（定休日、営業時間など）	

<b>所要資金の額及び調達方法</b>	
1 所要資金の算出根拠	
(1)	仕入（見込み）
	① 酒類の年間仕入額 <span style="float: right;">千円</span>
	② 酒類の月間仕入額 (① × 1 / 12) <span style="float: right;">千円</span>
	③ 在庫 (② × 1 / 2) <span style="float: right;">千円</span>
	④ 最初の月の所要資金 (② + ③) <span style="float: right;">千円</span>
(2)	設備
	千円
	千円
	千円
(3)	
2 所有資金	
(1)	千円
(2)	千円
(3)	千円
(4)	千円
3	

販売業免許申請書 次葉 6

**「酒類の販売管理の方法」に関する取組計画書**

(選任予定の酒類販売管理者の氏名及び年齢) ( 歳)	(酒類小売販売場の所在地及び名称)		
実施団体： 受講予定月：平成 年 月	(店舗全体の面積) m <sup>2</sup>	(営業時間) 時 分～ 時 分・24時間	
	(酒類売場の面積) m <sup>2</sup>	(定休日： )	
(酒類販売管理者に代わる責任者(予定者)の人数及び氏名等) 総数： 名			
氏 名 (年 齢) ( 歳)	指名の基準	氏 名 (年 齢) ( 歳)	指名の基準
( 歳)		( 歳)	
( 歳)		( 歳)	
( 歳)		( 歳)	

(注)「指名の基準」欄には、次の《責任者の指名の基準》のいずれかに該当する番号を記載してください。

《責任者の指名の基準》

以下(1)～(7)に掲げるいずれかに該当する場合には、当該販売場において酒類の販売業務に従事する者の中から酒類販売管理者に代わる者を責任者として必要な人数を指名し、配置してください。

- (1) 夜間(午後11時から翌日午前5時)において、酒類の販売を行う場合(成年者の指名をお願いします。)
- (2) 酒類販売管理者が常態として、その選任された販売場に長時間(2～3時間以上)不在となることがある場合
- (3) 酒類売場の面積が著しく大きい場合(100平方メートルを超えるごとに、1名以上の責任者を指名)
- (4) 同一建物内において酒類売場を設置している階が複数ある場合(酒類販売管理者のいない各階ごとに、1名以上の責任者を指名)
- (5) 同一の階にある複数の酒類売場が著しく離れている場合(20メートル以上離れている場合)
- (6) 複数の酒類売場が著しく離れていない場合であっても、同一の階において酒類売場のポイントが著しい場合(3箇所以上ある場合)
- (7) その他酒類販売管理者のみでは酒類の適正な販売管理の確保が困難と認められる場合

(申請する免許の条件)

1：卸売業 2：小売業(卸小売兼業を含む) 3：期限付小売業(免許期間の開始希望日：平成 年 月 日)

(小売販売場の業態等の区分)

1：一般酒販店(酒屋、酒類専門店等) 2：コンビニエンスストア 3：スーパーマーケット 4：百貨店  
 5：量販店(ディスカウントストア等) 6：業務用卸主体店 7：ホームセンター 8：ドラッグストア  
 9：その他( )

※「9：その他」については、具体的に記載してください。

酒類の販売業免許の申請書の記載事項である「酒類の販売管理の方法」については、本様式に記載する方法によるものとします。

	項 目	区 分	※ 税務署整理欄 (実態確認状況)
酒類販売管理者関係	1 販売場の見やすい場所に酒類販売管理者の氏名を掲示する。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	2 販売場の見やすい場所に酒類販売管理研修の受講事績を掲示する。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
未成年者の飲酒防止関係	1 未成年と思われる者に対して、身分証明証等により年齢確認を行う。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	2 未成年者の飲酒防止に関するポスターを掲示する。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	3 「その他の取組」の概要 <span style="font-size: small;">〔※上記以外の取組をしている場合にその内容を具体的に記載してください。(例)「レジに啓発のためのグッズ等を置く」、「レジ袋に未成年者の飲酒防止啓発のための表示をする」等〕</span>		

未成年者の飲酒防止に関する表示基準の実施予定	1 酒類の陳列場所を設けて販売する。	はい・いいえ	
	(1) 消費者が酒類に触れられない状態に置き、手渡しで販売する。	はい・いいえ	
	(2) 酒類と他の商品との売場を壁や間仕切り等で分離又は区分する。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 ( <input type="checkbox"/> 分離・ <input type="checkbox"/> 区分) <input type="checkbox"/> 不適
	(3) 酒類の陳列場所に、表示基準に則って「酒類の売場である」又は「酒類の陳列場所である」旨の表示を行う。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	(4) 酒類の陳列場所に、表示基準に則って「20歳以上の年齢であることを確認できない場合には酒類を販売しない」旨の表示を行う。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	2 酒類の通信販売（インターネットを含む）を行う。 (注)1 この表示基準でいう「通信販売」とは、「通信販売酒類小売業免許」を付与されて行うものに限らず、一般酒類小売業者が免許条件の範囲内で行う通信販売を含み、商品の内容・価格などをカタログ、新聞折込チラシなどで提示し、郵便、電話、ファックスなどの方法で注文を受けて行う販売をいいます。 2 「いいえ」に「○」を付した方は、次の(1)及び(2)の記載は不要です。	はい・いいえ	
	(1) 酒類の通信販売（インターネットを含む）における広告、カタログ、申込書、納品書等に、表示基準に則って「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」旨等の表示を行う。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	酒類の購入申込書等に年齢記載欄を設ける。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
(2) 酒類の配達を行う旨のチラシに「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」又は「未成年者に対しては酒類を販売しない」旨の表示を行う。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適	
3 酒類の自動販売機を設置しない。	はい・いいえ	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

※ 以下は、酒類の自動販売機を設置する予定がない場合には記載する必要はありません。

《酒類の自動販売機に対する表示基準の実施予定》

順 号						※ 税務署整理欄 (実態確認状況)
自動販売機の設置予定年月	平 年 月	平 年 月	平 年 月	平 年 月		
自動販売機の種類	改良型・改良型以外	改良型・改良型以外	改良型・改良型以外	改良型・改良型以外		
自動販売機の設置位置	店内・店外	店内・店外	店内・店外	店内・店外		
未成年者の飲酒防止に関する表示基準の実施予定	未成年者の飲酒は禁止されている旨	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	免許者の氏名又は名称	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	酒類販売管理者の氏名	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	連絡先の所在地及び電話番号	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
	販売停止時間	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適
販売停止等のためのタイマーの設置の有無	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適	
セレクトボタン部分への酒類である旨の表示の有無	有・無	有・無	有・無	有・無	<input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 不適	

通信販売酒類小売業免許申請書チェック表

※ 通信販売酒類小売業免許申請書の提出時に太線の枠内を記載して、添付してください。

この申請についての連絡先住所、電話番号及び担当者氏名	
----------------------------	--

《①酒類販売業免許申請書及び申請書次葉1～6》

記載事項	確認事項	確認	税務署 整理欄
販売場の所在地及び名称	・不動産登記法によるすべての地番、住居表示による所在地及び名称等が記載されているか ・ふりがなの記載漏れはないか		
申請する販売業免許等の種類	「通信販売酒類小売業免許」と記載されているか		
販売業免許申請書次葉1 (販売場の敷地の状況)	建物の全体図に、申請販売場の位置が明示されているか		
販売業免許申請書次葉2 (建物等の配置図)	申請販売場と一体として機能する倉庫等は明示されているか		
販売業免許申請書次葉3 (事業の概要)	店舗等の広さ、什器備品等について記載もれはないか		
販売業免許申請書次葉4 (収支の見込み)	申請販売場の店舗に照らし合わせた合理的な収支見積もりが組まれているか		
販売業免許申請書次葉5 (所要資金の額及び調達方法)	自己資金による場合は資金繰表、資金捻出の根拠説明書又は残高証明書等、融資による場合は金融機関の証明書又は融資者の原資内容を証明する書類を添付しているか		
販売業免許申請書次葉6 (「酒類の販売管理の方法」に関する取組計画書)	選任予定の酒類販売管理者の氏名及び年齢等が記載されているか		

《添付書類》

添付書類	確認事項	確認	税務署 整理欄
②通信販売酒類小売業免許申請書チェック表	申請書の記載事項及び添付書類の確認欄に○印を付しているか		
③酒類販売業免許の免許要件誓約書(通信販売酒類小売業免許申請用)	・誓約事項に漏れはないか ・誓約すべき者に漏れはないか(申請者、申請法人の監査役を含めた役員全員、申請者の法定代理人及び申請販売場の支配人)		
④法人の登記事項証明書及び定款の写し	履歴事項全部証明書を添付しているか		
⑤住民票の写し	マイナンバー(個人番号)の記載がないものであるか		
⑥契約書等の写し(申請書次葉3付属書類)	土地、建物、施設又は設備等が賃貸借の場合は賃貸借契約書(写)、建物が未建築の場合は請負契約書(写)、農地の場合は農地転用許可関係書類(写)を添付しているか		
⑦土地及び建物の登記事項証明書	・全部事項証明書を添付しているか ・申請販売場の建物が複数の土地にかかる場合には、そのすべての地番に係る土地の登記事項証明書を添付しているか		
⑧最終事業年度以前3事業年度の財務諸表	最終事業年度以前3事業年度分があるか(個人の場合には、収支計算書等)		
⑨都道府県及び市区町村が発行する納税証明書申請者の履歴書	・都道府県及び市区町村が発行する納税証明書(未納税額がない旨及び2年以内に滞納処分を受けたことがない旨の証明)をそれぞれ添付しているか ・法人については、証明事項に「地方法人特別税」を含めているか		
⑩その他参考となるべき書類	(1)申請者自身の職歴を記載した履歴書(法人の場合には、監査役を含めた役員全員の職歴を記載しているか) (2)販売しようとする酒類についての説明書、酒類製造者が発行する通信販売の対象となる酒類である旨の証明書又は製造委託契約書・同計画書等 (3)酒類の通信販売における表示を明示したカタログ等(インターネット等によるものを含む。)のレイアウト図、申込書、納品書(案)等(次頁の内容についても確認しているか)		

《(3)についての確認事項》	確認	税務署 整理欄
酒類の販売方法等について次の事項を満たしていること		
(1) 特定商取引に関する法律の消費者保護関係規定に準拠していること		
イ カタログ等(インターネット等によるものを含む。以下同じ。)に次の事項が表示されていること		
(イ) 商品の販売価格(販売価格に商品の送料が含まれない場合には、販売価格及び商品の送料)		
(ロ) 商品の代金の支払の時期及び方法		
(ハ) 商品の引渡時期		
(ニ) 商品の引渡しについての特約に関する事項(その特約がない場合には、その旨)		
(ホ) 販売業者の氏名又は名称、住所及び電話番号		
(ヘ) 法人の場合、インターネット等によるときは、販売業者の代表者又は通信販売に関する業務の責任者の氏名		
(ト) 申込みの有効期限があるときは、その期限		
(チ) 上記(イ)以外に購入者が負担すべき金銭があるときは、その内容及びその額		
(リ) 商品に隠れた瑕疵がある場合の販売業者の責任についての定めがあるときは、その内容		
(ル) 商品の販売数量の制限その他の商品の販売条件があるときは、その内容		
(レ) インターネット等によるときは、販売業者の電子メールアドレス		
ロ 商品の引渡しをする前に、商品代金の全部又は一部を受領する場合は、申込みを承諾する旨の通知をすることとしていること		
(2) 未成年者の飲酒防止に関する表示基準に基づき、カタログ等(インターネット等によるものを含む。)に次の事項が表示されていること		
イ 「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」又は「未成年者に対しては酒類を販売しない」旨(カタログ等)		
ロ 申込者の年齢記載欄を設けた上で、その近接する場所に「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」又は「未成年者に対しては酒類を販売しない」旨(申込書等)(インターネット等により申込みを受ける場合には申込みに関する画面)		
ハ 「未成年者の飲酒は法律で禁止されている」旨(納品書等)(インターネット等による通知を含む。)		
ニ 上記イからハについて、10ポイントの活字(インターネット等による場合には酒類の価格表示に使用している文字)以上の大きさの統一のとれた日本語で明りょうに表示していること		

(注) 「確認」欄には、作成した添付書類について、それぞれの確認事項及び添付を確認し、○印(提出しなくても良いもの又は該当がないものについては、確認欄に斜線を引いてください。)を記載してください。

# 酒類販売業免許の免許要件誓約書

(通信販売酒類小売業免許申請用)

\_\_\_\_\_ 税務署長 殿

申請（申出・申告） 販売場の所在地及び 名称	
------------------------------	--

申請（申出・申告）者が個人の場合

私（及び法定代理人）の免許の要件について、別紙1及び2のとおり誓約します。  
 なお、この誓約内容に偽りがあった場合、酒税法の規定により、その事実が①審査段階で判明したときは拒否処分、②免許取得後に判明したときは免許の取消処分を受けることがあることを承知しています。

平成 年 月 日

（申請（申出・申告）者の住所）  
 （氏 名） 印

---

下記法定代理人は、誓約内容を確認しているので、各法定代理人それぞれの誓約に代え、代表して誓約します。  
 （法定代理人氏名）

平成 年 月 日

（法定代理人住所）  
 （法定代理人氏名） 印  
 （申請（申出・申告）者との関係）

申請（申出）者が法人の場合

当社及び役員等の免許の要件について、別紙1及び2のとおり誓約します。  
 なお、この誓約内容に偽りがあった場合、酒税法の規定により、その事実が①審査段階で判明したときは拒否処分、②免許取得後に判明したときは免許の取消処分を受けることがあることを承知しています。

平成 年 月 日

（申請（申出）者の所在地） (法人代表者印)  
 （名称及び代表者氏名） 印

---

下記役員等は、誓約内容を確認しているので、各役員等それぞれの誓約に代え、代表して誓約します。  
 （役職及び氏名）  
 代表取締役  
 取締役  
 取締役  
 監査役  
 支配人

平成 年 月 日

（名 称） (代表者個人印)  
 （代 表 者 氏 名） 印

1 / 3 (別紙1及び2を添付して提出してください。)

誓 約 項 目	申請者等の誓約内容			順号
	申請(申出)者	役員等	法定代理人	
<b>1 酒税法10条1号から8号関係(人的要件)</b>				—
1号関係：申請(申出・申告)者が酒税法(12条1、2、5号、13条、14条1、2号)の規定により免許を取り消されたことがない又はアルコール事業法の規定により許可を取り消されたことがない。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	①
2号関係：申請(申出・申告)者が1号に該当する法人の業務執行役員をしていた者でその取消の日から3年を経過するまでの間の申請(申出・申告)でない。 ○ 酒類の製造者又は販売業者である法人が、酒税法(12条1、2、5号、13条、14条1、2号)の規定により免許を取り消された法人 ○ アルコール事業法の許可を受けた法人で、同法の規定により許可を取り消された法人	はい・いいえ (個人のみ)	はい・いいえ	はい・いいえ	②
3号関係：申請(申出・申告)者が未成年者又は成年被後見人、被保佐人若しくは被補助人のときに、その法定代理人が1、2、7、7の2、8号に該当しない。	はい・いいえ (個人のみ)			③
4号関係：申請(申出)者又は法定代理人が法人の場合にその役員が1、2、7、7の2、8号に該当しない。	はい・いいえ (法人のみ)		はい・いいえ (法人のみ)	④
5号関係：支配人が1、2、7、7の2、8号に該当する者でない。	はい・いいえ			⑤
6号関係：申請(申出・申告)者が免許の申請前2年内において国税又は地方税の滞納処分を受けていない。	はい・いいえ			⑥
7号関係：国税等に関する法律の規定により罰金の刑に処せられ又は通告処分を受けたことがない。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	⑦
[上記で「いいえ」に○を付した場合] 申請(申出・申告)時において、それぞれ、その刑の執行を終わり、若しくは執行を受けることがなくなった日又はその通告の旨を履行した日から3年を経過している。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
7号の2関係：未成年者飲酒禁止法若しくは暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律等の規定により、又は刑法等に定める一定の罪を犯したことにより、罰金の刑に処せられたことがない。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	⑧
[上記で「いいえ」に○を付した場合] 申請(申出・申告)時において、その執行を終わった日又は執行を受けることがなくなった日から3年を経過している。	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	
8号関係：禁錮以上の刑に処せられたことがない。	はい・いいえ (個人のみ)	はい・いいえ	はい・いいえ	⑨
[上記で「いいえ」に○を付した場合] 申請(申出・申告)時において、その執行を終わった日又は執行を受けることがなくなった日から3年を経過している。	はい・いいえ (個人のみ)	はい・いいえ	はい・いいえ	
<b>【理由等】</b>				
<b>2 酒税法10条9号関係(場所的要件)</b> 申請販売場が取締上不適当と認められる場所でない。				—
(1) 申請販売場が酒類の製造場、酒類の販売場、酒場、料理店等と同一場所でない。	はい・いいえ			⑩
(2) 申請販売場の申請者の営業が販売場の区画割り、専属の販売従事者の有無、代金決済の独立性その他販売行為において他の営業主体の営業と明確に区分されている。	はい・いいえ			⑪
<b>【理由等】</b>				



誓 約 項 目	申請者等の誓約内容			順号
	申請(申出)者	役員等	法定代理人	
<b>3 酒税法10条10号関係(経営基礎要件)</b> (注) 酒税法10条10号関係の要件を充足するかどうかについては、次の事項から判断します。				—
(1) 申請(申出)者が、破産者で復権を得ていない場合に該当しない。	はい・いいえ			⑫
(2) 事業経営のための経済的信用の薄弱、経営能力の貧困等経営の基礎が薄弱であると認められない。				—
イ 現に国税若しくは地方税を滞納していない。	はい・いいえ	はい・いいえ		⑬
ロ 申請(申出)前1年以内に銀行取引停止処分を受けていない。	はい・いいえ	はい・いいえ		⑭
ハ 最終事業年度における確定した決算に基づく貸借対照表の繰越損失が資本等の額を上回っていない。	はい・いいえ (法人のみ)	はい・いいえ		⑮
ニ 最終事業年度以前3事業年度のすべての事業年度において資本等の額の20%を超える欠損となっていない。	はい・いいえ (法人のみ)	はい・いいえ		⑯
ホ 酒税に関係のある法令に違反し、通告処分を受けていない又は告発されていない。	はい・いいえ	はい・いいえ		⑰
ヘ 建築基準法等の法令又は条例に違反しており、建物の除却若しくは移転を命じられていない。	はい・いいえ			⑱
ト 酒類の適正な販売管理体制を構築することができる。	はい・いいえ			⑲
(3) 申請(申出)者は、経験その他から判断し、適正に酒類の通信販売を行うため十分な知識、経営能力及び販売能力を有すると認められる者又はこれらの者が主体となって組織する法人である。	はい・いいえ			⑳
(4) 申請(申出)者は、酒類の販売業を継続して行うために必要な所要資金を賄うに足りる所有資金等を有している。	はい・いいえ			㉑
(5) 酒類の販売業を継続して行うために必要な販売施設及び設備を有している又は必要な資金を有し免許を付与するまでに販売施設及び設備を有することが確実と認められる。	はい・いいえ			㉒
(6) 販売方法が特定商取引に関する法律の消費者保護関係規定に準拠し、「未成年者の飲酒防止に関する表示基準」を満たし、又はこの定めを満たすことが確実である。	はい・いいえ			㉓
(7) 酒類の購入申込者が未成年者でないことを確認できる手段を講ずる。	はい・いいえ			㉔
【理由等】				
<b>4 酒税法10条11号関係(需給調整要件)</b> 酒税の保全上酒類の需給の均衡を維持する必要があるため、酒類の販売業免許を与えることが適当でない認められる場合に当たらない。				—
販売しようとする酒類の範囲が、(1)国産酒類のうち、①カタログ等の発行年月日の属する会計年度の前会計年度における酒類の品目ごとの課税移出数量が、全て3,000キロリットル未満である酒類製造者(特定製造者)が製造、販売する酒類、②地方の特産品等(製造委託者が所在する地方の特産品等に限る。)を原料として、特定製造者以外の製造者に製造委託する酒類であり、かつ、当該酒類の一会計年度における製造委託者ごとの製造委託数量の合計が3,000キロリットル未満である酒類、又は、(2)輸入酒類である。	はい・いいえ			㉕
【理由等】				

整理番号	
------	--

登録免許税の領収証書提出書

平成 年 月 日

\_\_\_\_\_ 税務署長 殿

提出者の住所、氏名又は  
名称及び代表者氏名 \_\_\_\_\_ 印

平成\_\_年\_\_月\_\_日付で通知があった登録免許税の納付については、登録免許税金 30,000 円  
を納付したので、登録免許税法第24条第1項の規定によりその領収証書を提出します。

領収証書ちょう付場所

(注) この様式は、申請の際に添付するものではなく、免許を付与されることとなった申請者が、酒類販売業免許通知書の交付時に「登録免許税の領収証書」をちょう付して提出するものです。

※ 販売場の所轄税務署に提出してください。

平成〇〇年〇〇月〇〇日

財務大臣 殿

※ 免許者の住所及び氏名を記載してください。

届出者 住所 千代田区霞が関〇丁目〇番〇  
氏名 (名称) 〇〇商事株式会社  
代表取締役 〇〇 太郎



酒類販売管理者選任(解任)届出書

酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律第 86 条の 9 第 4 項の規定により、下記のとおり酒類販売管理者の選任(解任)について届け出ます。

記

1 販売場の名称及び所在地  
(名 称) 〇〇通販ショップ  
(所 在 地) 千代田区大手町〇丁目〇番〇,△番△

2 酒類販売管理者の氏名、住所及び生年月日  
○ 選任した酒類販売管理者 (氏 名) 〇〇 次郎 (住 所) 中野区新井△-△-△ (生年月日) 昭和45年1月11日  
○ 解任した酒類販売管理者 (氏 名) (住 所) (生年月日) 年 月 日

3 酒類販売管理者の役職名等  
○ 選任した酒類販売管理者 〇〇通販ショップ 店長  
○ 解任した酒類販売管理者

4 酒類販売管理者の選任(解任)年月日  
 選 任 平成〇〇年〇〇月〇〇日  
 解 任

※ 研修実施団体の研修実施計画が未定の場合には、「研修実施計画が示され次第、速やかに受講させます。」「〇年〇月頃受講予定」と記載してください。  
※ 受講済みの場合は、必ず記入してください。

5 酒類販売管理研修の受講(予定)年月日及び受講(予定)団体名  
(受講(予定)年月日) 平成〇〇年〇〇月〇〇日  
(受講(予定)団体名) 霞が関小売酒販組合

「(備考) 1」参照  
※ 雇用期間の定めがない場合は、期間の末日は記載しないでください。  
※ 免許者本人(個人)を販売管理者に選任した場合は、この欄の記載は不要です。  
※ 例えば、免許者(個人)の配偶者又は法人の役員を販売管理者に選任した場合は、期間の初日に、「配偶者又は役員が、当該店舗において従事を始めた日」を記載してください(期間の末日の記載は不要です)。

6 雇用期間  
平成 〇年 4月 1日から 年 月 日

7 従事させる業務内容  
店舗の運営・管理、従業員への指導

※ 例を参考に具体的な業務内容を簡記してください。

8 解任の理由

「(備考) 4」参照

「(備考) 3」参照

「(備考) 2」参照

※税務署整理欄	入力年月日	・	担当者
---------	-------	---	-----

(備考) 1 「雇用期間」欄には、雇用期間の定めがない場合は、雇用した年月日を記載してください。  
 2 選任届出書は、8に掲げる事項の記載は要しません。  
 3 解任届出書は、5から7に掲げる事項の記載を要しません。  
 4 酒類販売管理者の選任及び解任を同日付で行った場合にあっては、選任及び解任した酒類販売管理者に関し、2及び3に掲げる事項について併記し届け出ることができます。  
 5 選任する酒類販売管理者が、選任前3年以内に酒類販売管理研修を受講している場合(受講日から3年を経過する日が、選任日から3か月を経過する日までに到来する場合を除く。)には、受講した酒類販売管理研修の受講証の写しを添付してください。

平成 年 月 日

財務大臣 殿

届出者

住所

氏名 (名称)

Ⓜ

**酒類販売管理者選任 (解任) 届出書**

酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律第 86 条の 9 第 4 項の規定により、下記のとおり酒類販売管理者の選任 (解任) について届け出ます。

記

1 販売場の名称及び所在地

(名 称)

(所 在 地)

2 酒類販売管理者の氏名、住所及び生年月日

選任した酒類販売管理者

解任した酒類販売管理者

(氏 名)

(氏 名)

(住 所)

(住 所)

(生年月日) 年 月 日

(生年月日) 年 月 日

3 酒類販売管理者の役職名等

選任した酒類販売管理者

解任した酒類販売管理者

4 酒類販売管理者の選任 (解任) 年月日

選 任

平成 年 月 日

解 任

5 酒類販売管理研修の受講 (予定) 年月日及び受講 (予定) 団体名

(受講 (予定) 年月日) 平成 年 月 日

(受講 (予定) 団体名)

6 雇用期間

年 月 日から 年 月 日

7 従事させる業務内容

8 解任の理由

※税務署整理欄

入力年月日

・ ・

担当者

- (備考) 1 「雇用期間」欄には、雇用期間の定めがない場合は、雇用した年月日を記載してください。  
 2 選任届出書は、8に掲げる事項の記載は要しません。  
 3 解任届出書は、5から7に掲げる事項の記載を要しません。  
 4 酒類販売管理者の選任及び解任を同日付で行った場合にあっては、選任及び解任した酒類販売管理者に関し、2及び3に掲げる事項について併記し届け出ることができます。  
 5 選任する酒類販売管理者が、選任前3年以内に酒類販売管理研修を受講している場合 (受講日から3年を経過する日が、選任日から3か月を経過する日までに来る場合を除く。) には、受講した酒類販売管理研修の受講証の写しを添付してください。

平成 年 月 日

## 証 明 書

殿

\_\_\_\_\_  
(通信販売酒類小売業免許申請者)

(住所)

\_\_\_\_\_  
(氏名又は名称及び代表者氏名)

\_\_\_\_\_  
⑩

平成11年6月25日付課酒1-36ほか4課共同「酒税法及び酒類行政関係法令等解釈通達の制定について（法令解釈通達）」第2編第10条第11号関係4に定める通信販売酒類小売業免許の対象酒類について、下記のとおり証明します。

### 記

当社（私）の平成 会計年度（4月1日から翌年3月31日までの期間をいう。）における酒類の品目ごとの課税移出数量は、すべて3,000キロリットル未満である。

## e-Tax で利用できる酒税関係の手続について

- 酒類製造業者の方が利用できる主な手続
  - ・ 酒税の納税申告及び納付
  - ・ 酒類の製成及び移出の数量等申告
  - ・ 酒類の移出数量明細書の提出
  - ・ 酒類等の亡失・腐敗の届出 など
- 酒類販売業者の方が利用できる主な手続
  - ・ 酒類の販売数量等報告
  - ・ 未成年者の飲酒防止に関する表示基準の実施状況等報告
  - ・ 酒類販売管理者の選任（解任）の届出
  - ・ 酒類蔵置所設置・廃止報告 など



詳しくは e-Tax ホームページをご覧ください。

<http://www.e-tax.nta.go.jp>

e-Tax・作成コーナーヘルプデスク  
e-コクセイ  
☎ 0570-01-5901

受付時間：月曜日～金曜日 9時～17時  
(土日、祝日等及び12月29日～1月3日を除きます。)

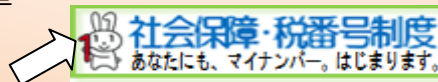
(注) 住基カードに格納された電子証明書は、社会保障・税番号制度の導入に伴い、平成28年1月以降に申請・交付が開始される「マイナンバーカード」に格納されます。

## 社会保障・税番号制度の導入について

社会保障・税番号制度の導入により、平成28年1月以降、税務署へ提出いただく申告書等にも番号の記載が必要となります。

社会保障・税番号制度についての詳しい情報は、国税庁ホームページ ([www.nta.go.jp](http://www.nta.go.jp)) 内の「社会保障・税番号制度について」をご覧ください。

なお、「社会保障・税番号制度について」のページは、国税庁ホームページのトップページにある「社会保障・税番号制度」の入口から簡単にアクセスすることができます。



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。